

平成30年度シラバス

児童学科 2年次

番号	科目名	項
2133	英語Ⅲ	2
2134	英語Ⅳ	4
2136	独語Ⅱ	6
2137	中国語Ⅰ ※平成29年度後期分	8
2201	家政学原論	9
2202	発達心理学	10
2203	保育の心理学(1)	11
2208	教育課程論	12
2214	ICTの基礎(1)	13
2215	ICTの基礎(2)	14
2301	国語(1)	15
2302	国語(2)	16
2303	書道	17
2304	社会A	19
2305	社会B	20
2307	算数B	21
2309	理科B	22
2315	音楽表現Ⅱ(1)(声楽)	23
2316	音楽表現Ⅱ(2)(声楽)	24
2317	音楽表現Ⅲ(1)(器楽)	25
2318	音楽表現Ⅲ(2)(器楽)	26
2319	造形表現Ⅰ(1)(美術)	27

番号	科目名	項
2320	造形表現Ⅰ(2)(美術)	28
2321	造形表現Ⅱ(1)(工芸)	29
2322	造形表現Ⅱ(2)(工芸)	30
2323	児童体育理論	31
2324	身体表現(1)	32
2325	身体表現(2)	33
2331	教職の理解	34
2346	教育方法・技術	35
2347	保育内容総論	36
2351	言葉の指導法	37
2356	保育研究(A)	38
2357	保育研究(B)	39
2376	保育者論	40
2377	保育課程論	41
2380	子どもの保健Ⅰ(1)	42
2381	子どもの保健Ⅰ(2)	43
2385	乳児保育(1)	44
2386	乳児保育(2)	45
2391	保育実習指導Ⅰ	46
2392	保育実習Ⅰ(1)	47
2393	保育実習Ⅰ(2)	48
	介護等体験	49

【2133】 外国語科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
英語Ⅲ		演習	杉本 久美子	2年次	前期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
授業概要			<p>小学校や幼稚園での学習活動において、英語でコミュニケーションをとることができ、英語でレッスンを展開できるような英語力を身につける。 また小学校や幼稚園での活動に関する英語表現の習得にもつとめる。</p>			単位認定の方法と フィードバックの有無 期末試験 60% 有 期末レポート — 授業内試験 — 授業内提出物 20% 有 授業内活動 20% 有 その他 —
到達目標の分類	◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	≪知識・理解≫ 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	≪汎用的技能≫ コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	≪態度・志向性≫ 自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	≪総合・統合≫ 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
当該科目のキーワード	発達段階、クラスルーム・イングリッシュ	コミュニケーション・スキル	—	授業案作成と振り返り		
授業時間外学修の指示	予習としてテキストを素読し、わからない表現等の下調べをしておく（45分程度）。授業終了後は復習し学習内容の定着を図ること（45分程度）。					
授業の到達目標	小学校の外国語活動で必要とされる英語力、特に英語を用いたコミュニケーションのとりかたの技法をマスターする。 クラスルーム・イングリッシュを習得し、授業も英語で行うことができるようにする。 英語だけでなく、指導にあたって有効な方法や教材について学ぶ。学んだことを活用し、子供たちが外国語学習に能動的に取り組む態度の育成を促すレッスンを展開できるようにする。					
単位認定の要件	授業内提出物（20％）授業内活動（20％）期末試験（60％）の合計点が60点以上。					
単位認定方法へのフィードバック	期末試験は試験終了後返却し解説する。授業内活動や提出物についても講評を行う。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	授業概要説明（使用テキスト、授業展開方法、評価方法についての説明） Unit1 Word Match（教職員の名称）				
	2	資料1 児童に英語を教える意義と留意点 Unit1 DialogとSubstitution Drill およびListening問題				
	3	資料2 子どものころから英語を学ぶ意義について Unit1 Readingと内容確認問題、Useful Expressions				
	4	資料3 子どもたちの特性を知る①年齢別 Unit2 Word Match（校庭遊具）Useful ExpressionおよびDialogue				
	5	資料4 子どもたちの特性を知る②人間の8技能 Unit2 Substitution Drill ListeningおよびReading問題				
	6	資料5 代表的な指導法 Unit3 Word Match（給食メニュー）Useful Expression				
	7	資料6 英語絵本、紙芝居、ピクチャーディクショナリーについて Unit3 DialogueとSubstitution Drill				
	8	フォニックスおよびフォニックスを用いた指導法について Unit3 Readingと内容確認問題				
	9	Unit4 Play Time Word Match（かくれんぼ）Useful ExpressionsおよびDialogue、Substitution Drill				
	10	Unit4 Readingと内容確認問題 小学校外国語教育：授業づくりと指導のポイント				
	11	Unit5 The First English Class Word Match（誉め言葉）Useful ExpressionおよびDialogueとDrill				
	12	Unit5 Listening 英語のチャンツと歌について Readingと内容確認問題				
	13	Unit6 Teaching Numbers 1 Number Rhyme & Chant Useful Expressions Dialogue				
	14	Unit6 Listening Rhyme & Mother Goose Readingと内容確認問題				
15	Unit7 Teaching Numbers 2 Sentence Match Useful Expressions Dialogue					
教科書・教材	Hello, English -English for Teachers of Children- 相羽千洲子他 SEIBIDO 2400円＋税					
参考書・参考文献等	特になし					
履修上の注意等	表現の習得および授業内における活動（英会話、教材制作など）には積極性をもって取り組むこと。					

【2133】 外国語科目	授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
英語Ⅲ	演習	杉本 久美子	2年次	前期	児童学科

	回	内 容
		16
	17	Unit8 Reflection Sentence Match Useful Expression Dialogue Substitution Drill 評価と振り返りカード
	18	Unit8 ListeningとReadingおよび内容確認問題、Unit9 Practice & Chant (体の部位) “Simons Says”
	19	Unit9 Activities at a Kindergarten Dialogue Substitution Drill Listening 全身反応教授法について
	20	Unit9 Readingと内容確認問題 Useful Expressions 小学校外国語教育におけるさまざまな活動
	21	Unit10 Growing Plants Word Match (朝顔の栽培) Useful Expressions Dialogue Drill Listening
授業計画 (各回の内容 や到達目標)	22	Unit10 内容言語統合型学習(CLIL)について Readingと内容確認問題 Unit11 Sentence Match Expressions
	23	Unit11 Making Onigiri and Curry Dialogue Substitution DrillとListeningおよびReadingと内容確認問題
	24	Unit12 Making a Town Map DialogueとDrill、Listening、Practice & Chant Useful Expressions
	25	Unit12 Readingと内容確認問題 資料⑦ カリキュラムとレッスンプラン
	26	Unit13 Introducing Japanese Culture Dialogueおよび関連問題 資料⑧ レッスンプランの作成の意義と目的
	27	Unit13 Readingと内容確認問題 Unit14 Sentence Match Useful Expressions およびDialogueと関連問題
	28	Unit14 Evacuation Drills Readingと内容確認問題 Unit15 Graduation Sentence Match Expressions
	29	Unit15 Dialogue Substitution Drill Listening Readingと内容確認問題
	30	前期授業総括

【2134】 外国語科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
英語IV		演習	杉本 久美子	2年次	後期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
授業概要			TOEICは特別な専門知識を問う英語試験ではなく、社会人が日常生活や会社内で用いる内容を主としている。よってTOEICのテキストを用いて多くの生きた英語に触れながら英語耳を育成するとともに、TOEIC対策をしつつコミュニケーション能力の向上を図る。			単位認定の方法とフィードバックの有無	
						期末試験 70% 有	
						期末レポート —	
						授業内試験 —	
						授業内提出物 —	
						授業内活動 30% 有	
						その他 —	
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。
	○		◎		—		○
当該科目のキーワード	TOEICの形式理解		問題に関する論理的思考		—		問題を解く力
授業時間外学修の指示	講義日までの予習45分、同講義についての復習に45分あて、各講義で学んだことを理解するよう努めること。 練習問題を繰り返し解き、TOEICの形式や頻出表現を覚えること。						
授業の到達目標	TOEIC試験の特性を知り、それぞれの問題形式に対応出来るようにする。特にTOEICはリスニングの量が多いため、リスニング力の向上を目指す。各パートで扱われるトピックに頻出する単語・表現をマスターする。						
単位認定の要件	授業内活動 (30%) 期末試験 (70%) の合計点が60点以上。						
単位認定方法へのフィードバック	授業内活動で取り組んだ問題は毎回解答・解答方法を説明する。期末試験は採点後返却、解答の確認・解説を行う。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容					
	1	授業概要説明 (使用テキスト、授業展開方法、評価方法等) TOEIC試験の概要説明 (時間、問題数、内訳など)					
	2	Unit1 Eating Out ① (食に関する頻出単語とリスニング問題1~2の解答方法と練習問題)					
	3	Unit1 Eating Out ② (文法問題part5とpart6の解答方法と練習問題、文法事項:動詞)					
	4	Unit1 Eating Out ③ (リーディング問題の解答方法と練習問題、part1~part7までの特徴確認)					
	5	Unit2 Travel ① (旅行に関する頻出単語とリスニング練習問題part1~part3まで解答・解説)					
	6	Unit2 Travel ② (前時の復習とリスニング練習問題part4、文法問題part5 解答・解説、文法事項:動詞)					
	7	Unit2 Travel ③ (リーディング練習問題part6~part7解答・解説) Unit3 ① 娯楽に関する頻出単語					
	8	Unit3 Amusement ② (リスニング練習問題part1~part4 解答・解説)					
	9	Unit3 Amusement ③ (文法練習問題part5、リーディング練習問題part6~part7 解答・解説)					
	10	Unit4 Meetings ① (会議に関する頻出単語、リスニング練習問題part1~part4 解答・解説)					
	11	Unit4 Meetings ② (文法練習問題part5、リーディング問題 part6 解答・解説、文法事項:代名詞)					
	12	Unit4 Meetings ③ (リーディング問題part7 解答・解説) Unit5 ① 頻出単語とリスニングpart1 解答解説					
	13	Unit5 Personnel ② (リスニング練習問題Part2~Part4、文法問題part5 解答・解説 文法事項:準動詞)					
	14	Unit5 Personnel ③ (リーディング練習問題Part6~Part7 解答・解説 文法事項:準動詞) Unit6 頻出単語					
15	Unit6 Shopping ① (リスニング練習問題Part1~Part4、文法問題Part5 解答・解説 文法事項:準動詞)						
教科書・教材	『一歩上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST: LEVEL1』朝日出版社 北尾泰幸 他 1700円+税						
参考書・参考文献等	特になし						
履修上の注意等	苦手意識に負けずに、1つずつ新しいことを学ぶ姿勢で受講してください。						

【2134】 外国語科目 英語IV	授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
	演習	杉本 久美子	2年次	後期	児童学科

授業計画 (各回の内容 や到達目標)	回	内 容
		16
	17	Unit7 Advertisement ② (リスニング問題Part1~Part4 解答・解説) Part5 文法事項:名詞・冠詞・数量詞(1)
	18	Unit7 Advertisement ③ (リーディング) 問題Part6~Part7 解答・解説)、Unit 8 Vocabulary
	19	Unit8 Daily Life ① (リスニング問題Part1~Part4 解答・解説、文法問題Part5 文法事項:名詞・冠詞・数量詞(2))
	20	Unit8 Daily Life ② (リーディング問題Part6~Part7 解答・解説、Unit9 Office Work Vocabulary)
	21	Unit9 Office Work ② (リスニング問題Part1~Part4 解答・解説、文法問題Part5 文法事項:仮定法)
	22	Unit9 Office Work ③ (前回の続き、リーディング問題Part6~Part7 解答・解説)
	23	Unit10 Business ① (リスニング問題Part1~Part4 解答・解説、文法問題Part5 文法事項:分詞)
	24	Unit10 Business ② (リーディング問題Part6~Part7 解答・解説、Unit11 ① Traffic Vocabulary)
	25	Unit11 Traffic ② (リスニング問題Part1~Part4 解答・解説、文法問題Part5 文法事項:関係詞)
	26	Unit11 Traffic ③ (前回の続き、リーディング問題Part6~Part7 解答・解説)
	27	Unit12 Financeand Banking ① (Vocabulary、リスニング問題Part1~Part4 解答・解説、文法事項:接続詞)
	28	Unit12 Financeand Banking ② (Part5 解答・解説、リーディング問題Part6~Part7 解答・解説)
	29	Unit13 Media ① (Vocabulary、リスニング問題Part1~Part4 解答・解説、文法問題Part5 文法事項:前置詞)
	30	後期授業総括: TOEIC 試験の特徴と解答方法について / 後期期末試験

【2136】 外国語科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
独語Ⅱ		演習	比内 馨	2年次	通年	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園
				○		保育士
授業概要						単位認定の方法とフィードバックの有無
1年次で履修したドイツ語の文法を踏まえて、初級ドイツ語会話に相当するコミュニケーション能力の習得を目的とする。またビデオ教材の併用によって、視聴覚的効果を利用した口答練習を中心にした。ビデオ教材で作り出された疑似ドイツ語空間を大いに利用できる演習としたい。						期末試験 70% 有
						期末レポート —
						授業内試験 10% 有
						授業内提出物 10% 有
						授業内活動 10% 有
						その他 —
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	
	○		◎		—	
当該科目のキーワード	異文化の理解		コミュニケーション・スキル		—	
授業時間外学修の指示	毎回の授業の予習復習に45分程度必要。					
授業の到達目標	目標：初級ドイツ語会話に相当するコミュニケーション能力の習得を目的とする。 テーマ：ドイツ文化について（ドイツ的な表現と日本的な表現の違いについて）。					
単位認定の要件	発声態度10%、小テスト10%、レポート10%と本試験70%による評価で、合計60点以上が合格。					
単位認定方法へのフィードバック	期末試験は採点し模範解答と一緒に返却。小テストやレポートは採点し返却後授業中に解説。発声等は授業中に指導。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	Lektion 1 “こんにちは、ミュンヘン”、人称代名詞と動詞の現在人称変化、音読練習				
	2	Lektion 1 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題				
	3	Lektion 2 “クラウディア、町へ行く”、定冠詞・不定冠詞・所有冠詞、音読練習				
	4	Lektion 2 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題				
	5	Lektion 1～Lektion 2までの復習、別冊問題集				
	6	Lektion 3 “住居共同体”、不規則動詞の現在人称変化、音読練習				
	7	Lektion 3 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題				
	8	Lektion 4 “ザルツブルクへの旅”、指示代名詞、分離動詞の現在人称変化、音読練習				
	9	Lektion 4 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題				
	10	Lektion 3～Lektion 4までの復習、別冊問題集				
	11	Lektion 5 “ミヒャエルの一日”、前置詞の格支配、人称代名詞、音読練習				
	12	Lektion 5 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題				
	13	Lektion 6 “オリンピアパークにて”、話法の助動詞、音読練習				
	14	Lektion 6 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題				
15	Lektion 5～Lektion 6までの復習、別冊問題集					
教科書・教材	教科書：関口一郎著『ハロー・ミュンヘン・ノイ』（白水社）					
参考書・参考文献等	特になし					
履修上の注意等	予習・復習時には必ず音読すること。授業中には、常に声を出すことが要求される。レポートの様式は、縦A4版横書きでお願いします。					

【2136】 外国語科目 独語Ⅱ	授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
	演習	比内 馨	2年次	通年	児童学科

--	--	--	--	--	--

授業計画 (各回の内容 や到達目標)	回	内 容
	16	Lektion 7 “買物”、形容詞の格変化、形容詞の比較変化、音読練習
	17	Lektion 7 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題
	18	Lektion 8 “週末には”、動詞の三基本形、過去と現在完了、音読練習
	19	Lektion 8 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題
	20	Lektion 7～Lektion 8までの復習、別冊問題集
	21	Lektion 9 “ベルリンについて”、文語の過去、受動文、音読練習
	22	Lektion 9 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題
	23	Lektion 10 “ドイツ博物館”、再帰代名詞と再帰動詞、zu不定詞句、音読練習
	24	Lektion 10 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題
	25	Lektion 9～Lektion 10までの復習、別冊問題集
	26	Lektion 11 “ルートヴィヒ2世”、関係代名詞、不定関係代名詞、音読練習
	27	Lektion 11 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題
	28	Lektion 12 “さようなら!”、接続法第1式、接続法第2式、音読練習
	29	Lektion 12 本文解説、口頭練習(roleplaying)、練習問題
30	Lektion 10～Lektion 12までの復習、別冊問題集	

--	--	--

【2137】 外国語科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
中国語 I ※平成29年度後期分		演習	町田 秀子	2年次	前期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
				○		
授業概要			中国語の初心者のための初歩的な中国語からはじめ、中国語の正しい発音を身につけること重視している。言葉の習得のみならず、中国文化や生活習慣を紹介することにより、異文化への理解を深めることができる。簡単なコミュニケーションが出来るように、目・口・耳を使って、最も基本的な表現を繰り返し練習することを中心にした講義を行う。			単位認定の方法と フィードバックの有無
			期末試験	80%	無	
			期末レポート	—		
			授業内試験	20%	有	
			授業内提出物	—		
			授業内活動	—		
			その他	—		
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
		◎	○	—	—	
当該科目のキーワード		基本的な文法・発音	簡単なコミュニケーション	—	—	
授業時間外学修の指示		毎回予習復習を行い、正しい発音を身につけるように努める。				
授業の到達目標		① 正しい発音 ② 基本的な文法 ③ 簡単なコミュニケーション ④ 中国文化への理解				
単位認定の要件		毎回の小テストをクリアのものと定期試験が60点以上のこと				
単位認定方法へのフィードバック		授業内試験はそのつど解説する。				
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容 ※1～15回は平成29年度に実施			
		16	第6課	何がありますか？	キーポイント・本文	
		17	第6課	何がありますか？	トレーニング・ヒアリング	小テスト
		18	第7課	何時に行きますか？	キーポイント・本文	
		19	第7課	何時に行きますか？	トレーニング・ヒアリング	小テスト
		20	第8課	ホテルのフロントで	キーポイント・本文	
		21	第8課	ホテルのフロントで	トレーニング・ヒアリング	小テスト
		22	第9課	タクシーに乗る	キーポイント・本文	
		23	第9課	タクシーに乗る	トレーニング・ヒアリング	小テスト
		24	第10課	試着と支払い	キーポイント・本文	
		25	第10課	試着と支払い	トレーニング・ヒアリング	小テスト
		26	第11課	苦情を訴える	キーポイント・本文	
		27	第11課	苦情を訴える	トレーニング・ヒアリング	小テスト
		28	第12課	紛失届を出す	キーポイント・本文	
29	第12課	紛失届を出す	トレーニング・ヒアリング	小テスト		
30	まとめ	中国語検定対策				
教科書・教材		1年生のコミュニケーション中国語				
参考書・参考文献等		とくになし				
履修上の注意等		予習復習をすること				

【2201】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
家政学原論		講義	佐々木 隆	2年次	前期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
			○				
授業概要		原論とは家政学の取り組むべき根本、幸福になることを考えるための学問です。自分の人生がこのままで良いのか、上手く生きることと良く生きることの違いと一致について考えます。				単位認定の方法と フィードバックの有無	
						期末試験	—
						期末レポート	—
						授業内試験	50% 有
						授業内提出物	20% 有
						授業内活動	30% 有
						その他	—
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
		○	○	○	◎		
当該科目のキーワード		経験とは何か、知識とは何か	対話をする	協調学習	無知に気が付くこと		
授業時間外学修の指示		自分の生活について資料を読んで考えること。予習90分復習90分。					
授業の到達目標		実践的な学問として、講義で得た知識と技術を使って、まず今の自分たち自身の現状を客観的に把握し、自分と自分たちの夢や目標に向かって進んでゆくことができるようになること。クラスの協調ができ助け合いがなされること。管理学概論でやったことの先に行く。教育技術と教育学との関係で考えてもらいたい。					
単位認定の要件		試験・小テストの点数が60点以上					
単位認定方法へのフィードバック		授業内試験50、提出物20、活動30					
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容				
		1	家政学とは何か。高校の家庭科や大学の家庭管理学で何を学んだか。				
		2	技術論に終わっていた家政学への反省から、何のための家政学かを考える。教育学との比較。				
		3	原論とは何か、自分の生活の原点から家政とは何かを考える。四つの原因 形相、質量、作用、目的				
		4	5W1Hという考えるツールについて解説1 家族 過去・現在・未来				
		5	5W1Hという考えるツールについて解説2 生活				
		6	5W1Hという考えるツールについて解説3 仕事				
		7	5W1Hという考えるツールについて解説4 買い物				
		8	まとめ、これまでに学んだことについて質疑応答・発表				
		9	自分の生活をどう変えてゆくのか。自分の現在の状況から考える。				
		10	計画の立て方についての反省・管理学を考え直す。問題解決は問題解決になっていたか。夏休み、休日など				
		11	人間関係について。自治ということ。自己責任という罫と嘘。				
		12	家政についての情報の検討。新聞記事、雑誌記事などを探す。教育と保育の家政学原論				
		13	まとめ、学んだことを検討する。発表				
		14	キャリアということ、知識と技能について。情報の集め方。検討の仕方。生活とのかかわり。試験				
		15	まとめ、講評。リアクションペーパー				
教科書・教材		プリント					
参考書・参考文献等		適宜、紹介する					
履修上の注意等		質問には必ず答えること。					

【2202】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科																																
発達心理学		講義	三道 なぎさ	2年次	前期	児童学科																																
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目																																	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園																																
			○		○	○																																
単位認定の方法とフィードバックの有無																																						
期末試験 85% 有																																						
<table border="1"> <tr> <td>期末レポート</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業内試験</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業内提出物</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>授業内活動</td> <td>15%</td> <td>有</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>—</td> <td></td> </tr> </table>							期末レポート	—		授業内試験	—		授業内提出物	—		授業内活動	15%	有	その他	—																		
期末レポート	—																																					
授業内試験	—																																					
授業内提出物	—																																					
授業内活動	15%	有																																				
その他	—																																					
<p>授業概要</p> <p>生涯発達の視点で胎児期から老年期にわたる発達の特徴とそれに関する研究や理論を概観し、心身の発達の特徴とプロセス、発達に影響を与える諸要因を理解する。乳児期から老年期までの発達のな人間理解を基に、様々な発達段階での心理的課題や問題について考える力を修得することを目標とする。</p>																																						
<table border="1"> <tr> <th>到達目標の分類</th> <th>《知識・理解》</th> <th>《汎用的技能》</th> <th>《態度・志向性》</th> <th>《総合・統合》</th> </tr> <tr> <td>◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標</td> <td>専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。</td> <td>コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。</td> <td>自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。</td> <td>獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>当該科目のキーワード</td> <td>発達理論、発達プロセスの理解</td> <td>—</td> <td>各発達段階における心理的問題や心理的課題の理解</td> <td>—</td> </tr> </table>							到達目標の分類	《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		◎	—	○	—	当該科目のキーワード	発達理論、発達プロセスの理解	—	各発達段階における心理的問題や心理的課題の理解	—												
到達目標の分類	《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》																																		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。																																		
	◎	—	○	—																																		
当該科目のキーワード	発達理論、発達プロセスの理解	—	各発達段階における心理的問題や心理的課題の理解	—																																		
<p>授業時間外学修の指示</p> <p>講義後から次週の講義までの間、180分程度の復習をするように努めること。具体的には、授業内で適宜紹介された参考資料や文献を活用しながら各回の内容を十分に理解する。専門職として必要な基礎知識を身に付けると同時に、今後の自身の人生を考える機会とする。</p>																																						
<p>授業の到達目標</p> <p>様々な発達段階での心理的課題や問題について考える力を修得するために、</p> <p>①発達に関する理論の理解ができる。 ②各発達段階における心身発達の特徴の理解ができる。 ③身近な事象と関連付けながら、各発達段階の心理的課題や問題について理解できる。</p>																																						
<p>単位認定の要件</p> <p>到達目標①～③の合計得点が60点以上であること。</p>																																						
<p>単位認定方法へのフィードバック</p> <p>期末試験は採点し、模範解答と一緒に返却する。コメントペーパーは確認後返却し、講義内においてフィードバックする。</p>																																						
<table border="1"> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>「発達」するとはどういうことか、発達の理論</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生物・心理・社会的な発達</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>胎児期、出生前診断（生命の芽生えと誕生）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>乳児期のころ（養育者との愛着の形成）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>幼児期のころ（関わりの中での自己の形成）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>幼児期・学童期のころ（人間関係の発達）</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>学童期のころ（学校での学びと思考の深まり）</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>青年期のころ（アイデンティティの確立と自立）</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>青年期のころ（友人関係・異性関係の変化）</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>成人期のころ（就職・結婚）</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>中年期のころ（出産と親としての成長）</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>中年期のころ（人間としての成熟）</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>老年期のころ（人生の統合）</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>終末期（ターミナルケア、喪の作業）</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>発達におけるつまずき</td> </tr> </table>							回	内 容	1	「発達」するとはどういうことか、発達の理論	2	生物・心理・社会的な発達	3	胎児期、出生前診断（生命の芽生えと誕生）	4	乳児期のころ（養育者との愛着の形成）	5	幼児期のころ（関わりの中での自己の形成）	6	幼児期・学童期のころ（人間関係の発達）	7	学童期のころ（学校での学びと思考の深まり）	8	青年期のころ（アイデンティティの確立と自立）	9	青年期のころ（友人関係・異性関係の変化）	10	成人期のころ（就職・結婚）	11	中年期のころ（出産と親としての成長）	12	中年期のころ（人間としての成熟）	13	老年期のころ（人生の統合）	14	終末期（ターミナルケア、喪の作業）	15	発達におけるつまずき
回	内 容																																					
1	「発達」するとはどういうことか、発達の理論																																					
2	生物・心理・社会的な発達																																					
3	胎児期、出生前診断（生命の芽生えと誕生）																																					
4	乳児期のころ（養育者との愛着の形成）																																					
5	幼児期のころ（関わりの中での自己の形成）																																					
6	幼児期・学童期のころ（人間関係の発達）																																					
7	学童期のころ（学校での学びと思考の深まり）																																					
8	青年期のころ（アイデンティティの確立と自立）																																					
9	青年期のころ（友人関係・異性関係の変化）																																					
10	成人期のころ（就職・結婚）																																					
11	中年期のころ（出産と親としての成長）																																					
12	中年期のころ（人間としての成熟）																																					
13	老年期のころ（人生の統合）																																					
14	終末期（ターミナルケア、喪の作業）																																					
15	発達におけるつまずき																																					
<p>授業計画（各回の内容や到達目標）</p>																																						
<p>教科書・教材</p> <p>特になし</p>																																						
<p>参考書・参考文献等</p> <p>山岸明子(著)「こころの旅 発達心理学入門」(新曜社) 坂上裕子ら(著)「問いからはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学」(有斐閣)</p>																																						
<p>履修上の注意等</p> <p>配布資料が多いため、各自ファイルを用意し、しっかり保管すること。</p>																																						

【2203】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
保育の心理学(1)		講義	三道 なぎさ	2年次	後期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園
			○		○	○
授業概要						単位認定の方法と フィードバックの有無
身体・運動機能，認知機能，自己概念，対人関係，コミュニケーション・社会性といった人間の心身機能の各側面に焦点を当て，これらの発達の変化について概観する。心身機能の発達プロセスに関する基礎理解をもとに，年齢段階に応じた子どもへの関わり方について考える力の修得を目標とする。						期末試験 85% 有
						期末レポート —
						授業内試験 —
						授業内提出物 —
						授業内活動 15% 有
						その他 —
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに，その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル，数量的スキル，情報リテラシー，論理的思考力，問題解決力。		自己管理能力，チームワーク，リーダーシップ，倫理観，市民としての社会的責任，生涯学習力。	
	◎		○		—	
当該科目のキーワード	子どもの心身発達の理解		年齢段階を踏まえた保育者の関わり方の検討		—	
授業時間外学修の指示	講義後から次週の講義までの間，180分程度の復習をするように努めること。具体的には，授業内で適宜紹介された参考資料や文献を活用しながら各回の内容を十分に理解する。また授業内の“問い”に対し，資料や文献，他の授業で習ったことも参考にしながら，実際の保育現場とどのように関連するのかについて考える。					
授業の到達目標	年齢段階に応じた子どもへの関わり方について考える力を修得するために， ①心身発達の諸側面に関する基礎的用語を理解できる。 ②各年齢段階の特徴を理解できる。 ③子どもの発達を促す環境や対応について理解できる。					
単位認定の要件	到達目標①～③の合計が60点以上であること。					
単位認定方法へのフィードバック	期末試験は採点し，模範解答と一緒に返却する。コメントペーパーは確認後返却し，講義内においてフィードバックする。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	保育と心理学の関係				
	2	愛着の形成				
	3	身体機能の発達				
	4	運動機能の発達				
	5	認知機能の発達（ピアジェの認知発達段階の感覚運動期、前操作期）				
	6	認知機能の発達（ピアジェの認知発達段階の具体的操作期、形式的操作期）				
	7	会話の発達				
	8	知覚の発達				
	9	自己理解の発達				
	10	他者理解の発達				
	11	発達の障害（発達障害）				
	12	発達の障害（インクルーシブ保育）				
	13	発達の障害（発達課題に応じた保）				
	14	発達の障害（共生社会における保育）				
15	保育者の発達					
教科書・教材	特になし					
参考書・参考文献等	沼山博ら（著）「新訂 子どもとかかわる人のための心理学」（萌文書林） 遠藤利彦ら（著）「乳幼児のこころ 子育て・子育ての発達心理学」（有斐閣アルマ）					
履修上の注意等	次年度以降の保育の心理学（2）とも関連する内容であるため，配布資料はよく整理し保管しておくこと。					

【2208】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
教育課程論		講義	本山 敬祐	2年次	後期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
			○		○	○
授業概要		将来指導計画を作成し各学校および各教室で学習者の学びを組織するためには、日々の教育活動がいかなる理論や手法によって編成・実施・評価されているかを理解する必要がある。また、各学校における教育実践の特色を理解するためには、教育実践の基本を理解しておかなければならない。本講義では教育課程の目的や意義に関する理解をはじめ、教育課程とカリキュラムの区別、隠れたカリキュラム、学習指導要領の変遷、教育課程行政等、授業づくりや学校づくりに必須の基礎知識に関する理解を深める。				単位認定の方法とフィードバックの有無
					期末試験	—
					期末レポート	50% 無
					授業内試験	—
					授業内提出物	
					授業内活動	30% 有
					その他	20% 無
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
		◎	○	○	○	
当該科目のキーワード	教育課程、カリキュラム、学習指導要領、教育課程行政		ペアワーク	M00C	学校の特色を分析する視点	
授業時間外学修の指示	予習・復習にそれぞれ90分程度の学習時間に相当する課題を数回提示する。					
授業の到達目標	①教育課程の目的や意義、その編成の原理について理解する。 ②教育課程とカリキュラムを区別する意義を理解し、隠れたカリキュラムについて説明できる。 ③学習指導要領の変遷について、社会的背景を踏まえて説明できる。 ④カリキュラム開発や教育課程特例校をはじめ、特色ある教育実践の背景や内容について説明できる。					
単位認定の要件	到達目標①～④の合計が60点以上。					
単位認定方法へのフィードバック	授業内活動の成果として提出されるコメントペーパーにおける質問等には、次回講義にて応答する。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	教育課程の意義・役割。教育課程とカリキュラム。				
	2	学習指導要領の変遷①1958年改訂まで				
	3	学習指導要領の変遷②1977年改訂まで				
	4	学習指導要領の変遷③2008年改訂まで				
	5	学習指導要領の変遷④2017年改訂				
	6	学習指導要領の各領域①特別活動				
	7	学習指導要領の各領域②道徳教育				
	8	学習指導要領の各領域③総合的な学習の時間				
	9	教育課程の編成原理と教育評価				
	10	カリキュラム・マネジメント				
	11	幼児教育				
	12	スタートカリキュラム				
	13	教育課程行政				
	14	教育課程特例校				
15	まとめ					
教科書・教材	『小学校学習指導要領』（2017年3月告示）および同解説（総則編）、『幼稚園教育要領』					
参考書・参考文献等	・佐藤学（1996）『カリキュラムの批評——公共性の再構築へ——』世織書房。 ・東京大学教育学部カリキュラム・イノベーション研究会編（2015）『カリキュラム・イノベーション：新しい学びの創造に向けて』東京大学出版会。					
履修上の注意等	期末試験に際して配布資料やノート、その他学習成果の持ち込みは可とする。ただし、授業時間外の学習を前提とした出題を行うことを十分理解すること。					

【2214】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
ICTの基礎(1)		演習	友田 志郎	2年次	前期	児童学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目			
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士		
				○	△	○		
授業概要						単位認定の方法とフィードバックの有無		
初等教育の場でのICT(情報通信技術)利用という点を主眼に据え、単にアプリケーションソフトの使い方を学ぶのではなく、教材作成・資料作成のための実践的な演習を行う。						期末試験 ー		
						期末レポート ー		
						授業内試験 ー		
						授業内提出物 50% 有		
						授業内活動 50% 無		
						その他 ー		
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
	—		◎		—		—	
当該科目のキーワード	—		教材・資料作成能力 情報処理スキル		—		—	
授業時間外学修の指示	本授業で学んだ内容を他授業の課題作成作業等に積極的に役立てる事で、より理解が深まる。課題作成のための時間は、基本的に授業時間外となるが、週平均45分以上必要。							
授業の到達目標	①Excelによるデータ集計・処理・グラフ作成などができる。 ②画像編集や作図などの作業を自由に行える。 ③音声データの編集が自由にできる							
単位認定の要件	上記①～③について得点の合計が60%以上であること							
単位認定方法へのフィードバック	提出課題についての講評を授業内で行う							
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容						
	1	Excelによる成績処理						
	2	Excelによるアンケート集計。ワークシート設計						
	3	Excelによるグラフ作成						
	4	Excelの様々な関数。条件関数と日付関数をもちいたカレンダー作成						
	5	画像データの編集(1)：画像編集。画像の合成						
	6	画像データの編集(2)：画像データの取り込み。フォトタッチ						
	7	画像データの編集(3)：GIFアニメーション。画像フォーマットの種類						
	8	Drawソフトによる作図(1)：基本図形						
	9	Drawソフトによる作図(2)：ベジェ曲線。自由曲線の編集。規則的配置						
	10	Drawソフトによる作図(3)：パラメータ指定・規則的配置による作図。見取り図作成						
	11	Drawソフトによる作図(4)：錯視図作成						
	12	Drawソフトによる作図(5)：様々なエフェクト機能の利用						
	13	画像データ・DrawデータのWordへの読み込み						
	14	音声データの処理(1)：音声の編集						
15	音声データの処理(2)：音楽CDの作成							
教科書・教材	特になし							
参考書・参考文献等	必要に応じて資料を配付する							
履修上の注意等	1年次に「コンピュータ概論」を履修している事が望ましいが、未履修であっても受講可能である。							

【2215】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
ICTの基礎(2)		演習	友田 志郎	2年次	後期	児童学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目			
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士		
授業概要		前期開講の「ICTの基礎(1)」に引き続き、初等教育の場でのICT(情報通信技術)利用、及びプログラミング教育への対応という点を主眼に据え、教材作成やプレゼンテーションに必要な技能、基礎的なプログラミングについて習得する。				単位認定の方法と フィードバックの有無		
						期末試験	—	
						期末レポート	—	
						授業内試験	—	
						授業内提出物	50% 有	
						授業内活動	50% 無	
						その他	—	
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
	—		◎		—		○	
当該科目のキーワード	—		教材・資料作成能力 プログラミング		—		プレゼンテーション	
授業時間外学修の指示	本授業で学んだ内容を他授業の課題作成作業等に積極的に役立てる事で、より理解が深まる。課題作成のための時間は、基本的に授業時間外となるが、週平均45分以上必要。							
授業の到達目標	①FLASH動画やビデオ動画の作成・編集ができる ②プレゼンテーション資料作成ができる ③プログラミングの初歩的概念を理解する							
単位認定の要件	上記①～③について得点の合計が60%以上であること							
単位認定方法へのフィードバック	提出課題についての講評を授業内で行う							
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容						
	1	FLASHによる動画作成(1)：FLASH動画の基本。各種トウィーン						
	2	FLASHによる動画作成(2)：シンボル自体の動き						
	3	FLASHによる動画作成(3)：複雑な動き。動きの階層的設計。						
	4	FLASHによる動画作成(4)：動画作品として仕上げる						
	5	FLASHによる動画作成(5)：ビデオ動画としての出力						
	6	ビデオ動画の編集。動画フォーマットの変換						
	7	PowerPointによるプレゼンテーション資料作成(1)：基本操作。アニメーションエフェクト						
	8	PowerPointによるプレゼンテーション資料作成(2)：動画・音声・表・グラフなどを含む資料。ハイパーリンク						
	9	Scratchを用いたプログラミング入門(1) 基本的操作						
	10	Scratchを用いたプログラミング入門(2) 線画グラフィックス						
	11	Scratchを用いたプログラミング入門(3) サンプルゲーム作成						
	12	Scratchを用いたプログラミング入門(4) サンプルゲーム作成・改造						
	13	ビデオDVDの作成						
	14	PowerPointによるプレゼンテーション：口頭発表課題 前半グループ						
15	PowerPointによるプレゼンテーション：口頭発表課題 後半グループ							
教科書・教材	特になし							
参考書・参考文献等	必要に応じて資料を配付する							
履修上の注意等	1年次に「コンピュータ概論」を履修している事が望ましいが、未履修であっても受講可能である。							

【2301】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
国語(1)		演習	船水 周	2年次	前期	児童学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目			
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士		
				○	○	○		
授業概要			この科目は互いを認め合い、自己と他者の違いを越えて協働的に学ぶためのコミュニケーション・スキルを身に付けることをねらいとする。授業では、原則として、学習者は互いに書き手・読み手、話し手・聞き手になって学び合う。 また、課題について調べたことを発表したり、わからないことや疑問点を進んで質問したりする。失敗や批判を恐れず、自分の考えを堂々と述べてほしい。			単位認定の方法と フィードバックの有無		
			期末試験	—				
			期末レポート	40%		無		
			授業内試験	20%		有		
			授業内提出物	20%		有		
			授業内活動	20%		有		
			その他	—				
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
	○		◎		○		—	
当該科目のキーワード	論の立て方・根拠		相手意識・論理性		協働性		—	
授業時間外学修の指示	学修時間を45分確保し、各回の目標達成に努める。内訳は予習1/3（15分）、復習2/3(30分)。							
授業の到達目標	①文章作成では、説得力のある「論の立て方」をしっかりと学ぶ。 ②会話では、文章作成で学んだ「論の立て方」にもとづいて伝え合う。 ③互いの考えを交換できるように他者との対話の仕方を身に付ける。 ④話し合いでは、根拠(理由や事実、データ)をもとに自分の意見を述べる。							
単位認定の要件	合計60点以上							
単位認定方法へのフィードバック	①時間内に教師が答えを発表し学生に自己採点させる。②提出物や活動はICTの活用・口頭により解説する。							
授業計画 (各回の内容や到達目標)	内 容							
	1	「事実と意見・感想の区別」「批評の仕方」「学習ノートのまとめ方」						
	2	「発表の仕方」「聞き方」「質問の仕方」「レジメのまとめ方」						
	3	「文章作成：情報の調整」「会話：感謝を伝える」「漢字：送り仮名の付け方1」						
	4	「文章作成：段落構成の理解」「会話：延期を依頼する」「漢字：送り仮名の付け方2」						
	5	「文章作成：要約する」「会話：書類を提出する」「漢字：敬語1 基本の形」						
	6	「文章作成：文章構造の理解」「会話：手順を質問する」「漢字：敬語2 特別な形」						
	7	「文章作成：プランニング1」「会話：会議で司会する」「漢字：敬語3 ウチとソト」						
	8	「文章作成：プランニング2」「会話：遅刻を連絡する」「漢字：敬語4 間違いやすい敬語」						
	9	「文章作成：異なる主張から検討」「会話：会議で意見を述べる」「漢字：改まった表現」						
	10	「文章作成：理由の妥当性」「会話：進捗状況を報告する」「漢字：熟語の構成」						
	11	「文章作成：証拠となる資料」「会話：会議を結論に導く」「漢字：漢字の構成」						
	12	「文章作成：論理的つながりを検討」「会話：企画を相談する」「漢字：四字熟語1」						
	13	「文章作成：原稿の作成」「会話：伝言を述べる」「漢字：四字熟語2」						
	14	「文章作成：資料の作成」「会話：自己PRをする」「漢字：対義語・誤字訂正」						
15	「文章作成：発表する」「会話：志望動機を述べる」「漢字：これまでの復習」							
教科書・教材	木下直子・木山三佳・徳田恵『学生のコミュニケーション・スキルの学び』（実教出版、2015）							
参考書・参考文献等	吉原恵子・間瀬泰尚・富江英俊・小針誠『スタディスキルズ・トレーニング』（実教出版、2011）田中共子編『よくわかる学びの技法第2版』（ミネルヴァ書房、2009）中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』（くろしお出版、2007）中村萬里・川崎聡・津野瀬果絵・矢毛達之・占部匡美・蔵田純子『実践日本語ワークブック』（双文社出版、2012）藤田哲也編著『大学基礎講座改増版』（北大路書房、2006）							
履修上の注意等	漢字・語句は各自が予習し、授業で補足説明をする。							

【2302】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
国語(2)		演習	船水 周	2年次	後期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
授業概要			○		○	
この科目には2つのねらいがある。1つは日本語の基礎知識や言葉の現象についてザッと振り返り、「言葉そのもの」「言葉の使い方」に見られる規則性や変化を知ることである。2つはそれらをもとにさまざまな文章表現(言語文化)を調べたり、考えたり、話し合ったりすることである。 自分自身の日本語に対する意識と教養を高め、豊かな言語生活を創造し続ける人をめざしてほしい。			○		○	
到達目標の分類			《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標			専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。
当該科目のキーワード			◎	○	—	○
授業時間外学修の指示			日本語の規則性・変化	相手意識	—	能動性
授業の到達目標			学修時間を45分確保し、各回の目標達成に努める。内訳は予習1/3(15分)、復習2/3(30分)。			
単位認定の要件			①日本語の基礎知識や日常の言語生活をもとに、日本語の規則性や変化を理解する。 ②文章表現について調べたり、考えたり、話し合いながら自分なりの解釈をもつ。 ③自分の主張が相手にしっかりと伝わるように発表や質問の仕方を工夫する。 ④物事の善悪・是非・疑問点について評価したり述べたりする。			
単位認定方法へのフィードバック			合計60点以上			
授業計画(各回の内容や到達目標)			①時間内に教師が答えを発表し学生に自己採点させる。②提出物や活動はICTの活用・口頭により解説する。			
教科書・教材			回	内 容		
参考書・参考文献等			1	【日本語の基礎1】音韻「音節・単音」「アクセント・抑揚」「言語変化」「五十音図」		
履修上の注意等			2	【日本語の基礎2】文字「漢字：六書・音訓」「万葉仮名・平仮名・片仮名」「ローマ字」		
			3	【日本語の基礎3】語彙「語彙と語句」「理解語彙・使用語彙」「対義語」「国語辞典」		
			4	【日本語の基礎4】文法「文・文節」「活用」「語幹・語尾」「助詞・助動詞」		
			5	【日本語の基礎5】文章「構成」「論理展開」「文脈」「語順」「文末表現」		
			6	【テキスト読解1】漢詩(偶成・春暁・春夜・静夜思・絶句・桃夭・鹿柴・春望他)		
			7	【テキスト読解2】ことわざ・格言・名言(大学・易経・論語・韓非子・孫子・史記他)		
			8	【テキスト読解3】近代詩(島崎藤村・北原白秋・室生犀星・高村光太郎・宮澤賢治他)		
			9	【テキスト読解4】短歌・俳句(晶子・子規・牧水・啄木・茂吉・虚子・鬼城・山頭火他)		
			10	【テキスト読解5】近代文学① 正岡子規『歌よみに与ふる書』『病床六尺』『仰臥漫録』他		
			11	【テキスト読解6】近代文学② 夏目漱石『夢十夜』		
			12	【テキスト読解7】近代文学③ 芥川龍之介『羅生門』		
			13	【テキスト読解8】現代文学① 志賀直哉『城の崎にて』		
			14	【テキスト読解9】現代文学② 太宰 治『富嶽百景』		
			15	【テキスト読解10】現代文 清水幾太郎「『が』を警戒しよう」(出典『論文の書き方』)		
参考書・参考文献等			特になし。レジュメ・資料(作品)を配布する。			
履修上の注意等			出口汪『ビジネスマンのための国語力トレーニング』(日本経済新聞社出版社、2014) 飯間浩明『辞書を編む』(光文社、2013) 国語学会編『国語学大辞典』(東京堂出版、1980) 山田敏弘『日本語音声・音声言語改訂版』(くろしお出版、2013) 岩淵匡・桜井光昭・武部良明・森田良行編『日本文法用語辞典』(三省堂、1990) 榊原邦彦『国語表現事典』(和泉書院、1999) 石黒圭『文章の裏ワザ』(河出書房新社、2014)			
事前			事前に資料(作品)を配布した場合は、読んでから授業に臨む。			

【2303】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
書道		演習	工藤 昌樹	2年次	通年	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
			○	○	△		
授業概要			現代社会において、正しい文字、より美しい文字を書き、後世に引き継ぐことは非常に重要なことと思われる。 本授業では文字に対する関心を更に深め、毛筆、硬筆の基礎、及びより高度な技術の向上を目指す。具体的内容としては、中国・日本の古典の臨書（楷書・行書）、更には、小学校書写教育の留意点、板書の仕方など、書写に関する幅広い知識と、高い技術の向上を目的とする。			単位認定の方法と フィードバックの有無	
			期末試験	—			
			期末レポート	—			
			授業内試験	—			
			授業内提出物	80%	有		
			授業内活動	20%	無		
			その他	—			
到達目標の分類	《知識・理解》 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		《汎用的技能》 コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		《態度・志向性》 自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		《総合・統合》 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	◎		○		—		—
当該科目のキーワード	古典を通しての書道基本の理解		社会人及び小学校教員としての書写力		—		—
授業時間外学修の指示	普段から、手書きの文字、書作品等に関心を持ち、書写力の向上に努めること。また、教科書の法帖を毎日練習するように努めること。						
授業の到達目標	社会人として常識的な書写力を修得するとともに小学校教員にも対応できる技能と知識を学ぶ。						
単位認定の要件	時間内での課題の提出と技術の向上で60点以上。						
単位認定方法へのフィードバック	提出物はその都度評価し、全て返却する。その際、感想・今後の課題等を解説する。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容					
	1	書道の歴史、書の上達法、授業の概要					
	2	書道用具の使用方法及び実技指導					
	3	原帖「孔子廟堂碑」について、課題の練習、添削、模範例配布					
	4	臨書・落款について、課題の練習、添削、提出					
	5	課題の練習、添削、模範例の掲示					
	6	書について、課題の練習、添削、提出、模範例の掲示					
	7	課題の練習、添削、模範例の掲示					
	8	課題の練習、添削、提出、模範例の掲示					
	9	原帖「九成宮醴泉銘」について、課題の練習、添削、模範例配布					
	10	課題の練習、添削、提出					
	11	課題の練習、添削、模範例の掲示					
	12	課題の練習、添削、提出、模範例の掲示					
	13	課題の練習、添削、模範例の掲示					
	14	課題の練習、添削、提出、模範例の掲示					
15	原帖「雁塔聖教序」について、課題の練習、添削、模範例の掲示						
教科書・教材	「書道資料集」教育図書刊						
参考書・参考文献等	特になし						
履修上の注意等	練習中は静寂の中で自己の集中力を高めることに努める。書道用具、半紙等の準備を怠らない。						

【2303】 専門教育科目	授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
書道	演習	工藤 昌樹	2年次	通年	児童学科

--	--	--	--	--	--

	回	内 容
	授業計画 (各回の内容 や到達目標)	16
17		課題の練習、添削、模範例の掲示
18		課題の練習、添削、提出、模範例の掲示
19		行書及び王羲之について、「集字聖教序」について
20		課題の練習、添削、模範例配布
21		課題の練習、添削、提出
22		課題の練習、添削、模範例の掲示
23		課題の練習、添削、提出、模範例の掲示
24		空海及び「風信帖」について、課題の練習、添削、模範例の掲示
25		課題の練習、添削、提出、模範例の掲示
26		課題の練習、添削、提出、模範例の掲示
27		小学校書写教育の現状と留意点
28		小学校教科書課題の練習、提出
29		「書道」一年間のまとめ、小学校6年書写課題の実習
30		小学校書写「硬筆」について、板書の仕方について

--	--	--	--	--	--

【2304】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科			
社会A		演習	本山 敬祐	2年次	後期	児童学科			
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		単位認定の方法と フィードバックの有無		
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士			
授業概要	<p>本講義では、テキストの輪読を通じて小学校社会科の教科書に記載されている事柄の背景について理解を深め、社会現象に対して問いを立て探究するための視点や作法の基礎を身に付けることを目的とする。また、地歴公民分野を横断する教養をより深めることで、将来の教育実践に幅と深みをもたせる場としたい。</p> <p>※学習指導要領に関する理解を深めたり社会科に関する具体的な指導方法の基礎を学びたい場合は、社会Bを受講すること。</p>					期末試験	—	—	
				○	△		期末レポート	50%	無
							授業内試験	—	—
							授業内提出物	—	—
							授業内活動	50%	有
							その他	—	—
到達目標の分類	◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		≪知識・理解≫ 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	≪汎用的技能≫ コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	≪態度・志向性≫ 自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	≪総合・統合≫ 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。			
当該科目のキーワード	社会科学の基本概念		社会について論じる力	市民としての教養	探究的な学び				
授業時間外学修の指示	各自テキストに目を通し、疑問点や論点を見つけてくること。各回45分程度の予習復習を必須とする。								
授業の到達目標	①社会科の教科書に書かれている事柄の背景にある概念や理論の基礎を理解する。 ②本講義で取り上げる概念や理論を用いて、具体的な事象を解釈し説明できるようになる。 ③共通の概念や理論をもとに議論する意義と面白さを体験する。 ④人生をかけて追究したい概念を見つけ、文献にあたりながら概念に対する理解を深める。								
単位認定の要件	上記①～③の合計が60点以上。								
単位認定方法へのフィードバック	輪読における担当箇所の発表に対しては、その都度形成的な評価を行う。								
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容							
	1	ガイダンス							
	2	GDP:「社会のよさ」とは何だろうか							
	3	勤労:生きづらさを加速させる自己責任の社会							
	4	時代:時代をわけることと捉えること							
	5	多数決:私たちのことを私たちが決める							
	6	運動:異議申し立てと正統性							
	7	私:自分の声が社会に届かない							
	8	公正:等しく扱われること							
	9	信頼:社会を支えるベースライン							
	10	ニーズ:税を「取られるもの」から「みんなのたくわえ」に変える							
	11	歴史認識:過去をひらき未来につなぐ							
	12	公:「生活の場」、「生産の場」、「保障の場」を作りかえる							
	13	希望:「まだ一ない」ものの力							
	14	(補論) NP0:つながりが生む学びとイノベーション							
15	まとめ:「社会科の本質」と学び続ける教員であるために								
教科書・教材	井出英策ほか(2017)『大人のための社会科——未来を語るために』有斐閣								
参考書・参考文献等	・井出英策(2016)『分断社会を終わらせる:「だれもが受益者」という財政戦略』筑摩書房。 ・宇野重規(2013)『民主主義のつくり方』筑摩書房。 ・坂井豊貴(2015)『多数決を疑う——社会的選択理論とは何か』(岩波新書)岩波書店。 ・山脇直司(2008)『社会とどうかわるか——公共哲学からのヒント』(岩波ジュニア新書)岩波書店。								
履修上の注意等	テキストの輪読方法等については、受講者数に応じて決定する。								

【2305】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
社会B		演習	石戸谷 繁	2年次	後期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
				○	△		
授業概要		新学習指導要領（小学校社会科）の教育目標及び内容を理解する。また、社会科を指導するうえでの基本的知識や方法についての理解を深める。				単位認定の方法とフィードバックの有無	
						期末試験	—
						期末レポート	—
						授業内試験	—
						授業内提出物	70% 無
						授業内活動	30% 無
						その他	—
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
		◎	○	—	—		
当該科目のキーワード		—	—	—	—		
授業時間外学修の指示		日常生活、書籍、マスコミやインターネット等をとおして、現在と過去における地域と日本、世界における様々な出来事や事象に関心をもつ。					
授業の到達目標		①社会科教育の基本的性格、新学習指導要領の目標と内容を理解する。 ②小学校社会科3学年、4学年、5学年、6学年で取り扱う学習内容の指導のあり方理解を深める。 ③地域学習・地図・地球儀の活用・国土学習、人物学習等についての理解を深める。					
単位認定の要件		到達目標①～③の達成が60点以上					
単位認定方法へのフィードバック		特になし					
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容				
		1	「社会かとはなにか」① 基本的性格 社会科をめぐる論争				
		2	" ② 社会科の成立と展開				
		3	新しい学習指導要領について 改訂のポイント、各学年の目標と内容				
		4	地域学習① 教材化、指導の方法				
		5	" ② 地域の人々の生活				
		6	" ③ 歴史と人物、史跡と文化遺産、博物館等の活用				
		7	地図と地球儀の活用① 活用の意味と意義、留意点				
		8	" ② 都道府県の指導				
		9	" ③ 世界の国々に関する指導①				
		10	国土学習① 地形・気候・人々の生活の指導				
		11	" ② 領土に関する問題				
		12	" ③ 日本の産業と国民生活の学習① 農林水産業				
		13	" ④ " ② 工業・商業・運輸・通信				
		14	歴史学習 人物の取り扱い				
15	政治、国際関係、国旗・国歌・国際儀礼の指導						
教科書・教材		「小学校学習指導要領解説 社会編」平成29年改訂版 文部科学省					
参考書・参考文献等		特になし					
履修上の注意等		特になし					

【2307】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
算数B		演習	高橋 信進	2年次	前期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		単位認定の方法と フィードバックの有無
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	保育士
				○	○	△	
							期末試験 50% 有
授業概要		<p>小学校の算数科の指導において必要とされる算数指導力を、理論の習得、指導案の作成及び模擬授業等を通して、確実に身に付けることを目的とする。この場合、グループごとに分かれて、指導案や教材の作成を通して、アクティブラーニングの実践を経験する。</p> <p>さらに、算数科理論の基礎知識としての「整数理論」について、学修する。</p>					期末レポート — 授業内試験 — 授業内提出物 20% 有 授業内活動 30% 有 その他 —
到達目標の分類		≪知識・理解≫ 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	≪汎用的技能≫ コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	≪態度・志向性≫ 自己管理力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	≪総合・統合≫ 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		◎	◎	—	○		
当該科目のキーワード		指導理論、整数理論の理解	授業の仕方	—	授業研究		
授業時間外学修の指示		班別に、指導案の作成、教材の作成、模擬授業を行う。整数理論に関する計算問題を解く。					
授業の到達目標		具体的には、次の事項について学習する。 ① 模擬授業を通して、授業の実施方法を理解する。 ② 授業研究を通して、授業の在り方を議論する。 ③ 整数理論（整数・小数・分数、約数と倍数、ユークリッド互除法、n進法）を、理解する。					
単位認定の要件		模擬授業の実施（50%）、筆記試験の得点（50%）の合算点が60%を越えること。					
単位認定方法へのフィードバック		授業研究における活動の積極性を評価する。筆記試験の答案について採点をし、返却する。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容				
		1	第1章 模擬授業及び授業研究の仕方				
		2	第1章 班の編成及び教材の作成				
		3	第2章 模擬授業1 ① たしざん（1）				
		4	第2章 模擬授業2 ② ひきざん（1）				
		5	第2章 模擬授業3 ③ たしざん（2）				
		6	第2章 模擬授業4 ④ ひきざん（2）				
		7	第2章 模擬授業及び授業研究の留意点、まとめ				
		8	第3章 整数理論 1 数の体系、小数、分数				
		9	第3章 整数理論 2 約数と倍数				
		10	第3章 整数理論 3 整数の割り算と商・余り				
		11	第3章 整数理論 4 ユークリッドの互除法				
		12	第3章 整数理論 5 1次不定方程式				
		13	第3章 整数理論 6 n進数				
		14	第3章 整数理論 7 整数の性質の活用				
15	第3章 整数理論 8 問題練習とまとめ						
教科書・教材		「大学新入生のための数学入門」 石村 園子 著 共立出版					
参考書・参考文献等		算数「授業力をみがく」 指導ガイドブック（啓林館） 文部省検定教科書「数学A」（数研出版）					
履修上の注意等		「算数A」を基礎学力とするので、「算数A」を履修すること。授業の仕方を重点に、確実に身に付ける。					

【2309】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
理科B		演習	友田 志郎	2年次	前期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
				○	△		
授業概要		小学校理科教育の為に必要となる基礎的な知識を整理・確認する。全授業の3分の2程度を生物学分野、3分の1程度を地学分野の内容に当てる				単位認定の方法とフィードバックの有無	
				期末試験	55%	無	
				期末レポート	—		
				授業内試験	15%	有	
				授業内提出物	—		
				授業内活動	30%	無	
				その他	—		
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
		◎	—	—	—		
当該科目のキーワード		生物の分類・形態、人体の仕組み、気象、天文、地質	—	—	—		
授業時間外学修の指示		十分に復習すること（週180分）。					
授業の到達目標		①生物の基本的な分類。それぞれの生物の形態的特徴を理解する ②ヒトを中心に、生物の体の仕組み・働きを理解する ③さまざまな気象現象について理解する ④地球・月・太陽・惑星の関係、季節と天文の関わりについて理解する ⑤さまざまな地形の成り立ちや、地質変動について理解する					
単位認定の要件		上記①～⑤について得点の合計が60%以上である事					
単位認定方法へのフィードバック		授業時間内に小テストを行い、正答を示して解説する。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容				
		1	生物の分類。五界説。動物の分類と形態				
		2	脊椎動物の分類・形態				
		3	節足動物・軟体動物の分類と形態				
		4	植物の分類と形態				
		5	細胞の構造とはたらき				
		6	人体のしくみ① 消化器系、循環器系のはたらき				
		7	人体のしくみ② 神経系のはたらき				
		8	動物の生理。行動				
		9	種子植物の構造。成長				
		10	動物・植物の有性生殖。初期発生・発芽				
		11	さまざまな気象現象				
		12	地球と太陽・月・惑星の関係。季節と星座				
		13	地球の構造。プレートテクトニクス				
		14	火山。岩石のつくり。地殻の変動				
		15	水の作用による地形形成				
教科書・教材		特になし					
参考書・参考文献等		特になし					
履修上の注意等		基礎的な内容なので、しっかりと復習し、理解しておくこと					

【2315】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
音楽表現Ⅱ(1)(声楽)		演習	諏訪 才子	2年次	前期	児童学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		単位認定の方法と フィードバックの有無	
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	保育士	
				○	○	○	△	
授業概要		声楽教則本コンコーネ50番、ヴァッカイ等による基礎練習と日本歌曲、イタリア歌曲の歌唱により、呼吸法、発声法、楽曲解釈、演奏表現・マナー等について理解し、体得する。また、受講生の伴奏による独唱およびクラス全体での合唱発表（受講生の指揮・伴奏）を行い、歌唱活動全般における実践力、指導力の向上を図る。				期末試験	—	
						期末レポート	—	
						授業内試験	70%	有
						授業内提出物	—	
						授業内活動	20%	有
						その他	10%	有
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》			
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。			
		◎	○	◎	○			
当該科目のキーワード	声楽発声法、楽曲解釈、演奏法		歌唱表現	独唱・合唱	歌唱・音楽活動			
授業時間外学修の指示	演奏曲を毎日20分以上練習すること。							
授業の到達目標	歌唱は、音楽表現および音楽活動全般の基礎となる。歌唱の基礎技術である声楽発声法の理論と実際を学び、日本歌曲や外国歌曲を通して、独唱と合唱の音楽的な歌唱技術・表現力、指導力を身につける。							
単位認定の要件	歌曲の暗譜独唱試験、授業参加・平常練習状況、課題曲・自由曲の合唱発表を総合評価して60点以上。							
単位認定方法へのフィードバック	授業内発表・独唱発表試験の講評及び振り返りレッスン、合唱発表の自己評価及び講評を行う。							
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容						
	1	発声法（ウォーミングアップ・姿勢）	コンコーネNo.1	日本歌曲唱法				
	2	発声法（呼吸法・プレス）	コンコーネNo.1	花の街他				
	3	発声法（共鳴・口の開け方）	コンコーネNo.2	この道他				
	4	発声法（発音法 母音）	コンコーネNo.2	早春賦他				
	5	発声法（発音法 子音）	コンコーネNo.1.2	夏の思い出他				
	6	発声法（音楽表現①フレージング）	ヴァッカイNo.1	イタリア歌曲唱法				
	7	発声法（音楽表現②歌詞の理解）	ヴァッカイNo.1	Caro mio ben他				
	8	芸術鑑賞 歌劇						
	9	合唱1 パート練習						
	10	合唱2 ハーモニー作り						
	11	合唱3 曲想作り・まとめ						
	12	任意の歌曲 個人指導1 伴奏合わせ						
	13	任意の歌曲 個人指導2 歌唱表現						
	14	任意の歌曲 独唱発表						
15	課題曲・自由曲 合唱発表							
教科書・教材	声楽教則本「コンコーネ50番」中声用 畑中良輔編（全音楽譜出版社） 「独唱名曲100選」（音楽之友社）							
参考書・参考文献等	適宜、指示する。							
履修上の注意等	コンサート・CD等で音楽鑑賞をすること。							

【2316】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
音楽表現Ⅱ(2)(声楽)		演習	諏訪 才子	2年次	後期	児童学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		単位認定の方法と フィードバックの有無	
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士		
授業概要	声楽教則本コンコーネ50番、ヴァッカイによる基礎練習と日本歌曲、イタリア歌曲、ドイツ歌曲の歌唱により、呼吸法、発声法、楽曲解釈、演奏表現・マナー等について理解し、体得する。また、受講生の伴奏による独唱およびクラス全体での合唱発表（受講生の指揮・伴奏）を行い、歌唱活動全般における実践力、指導力の向上を図る。					期末試験	—	
				○	○	○	△	
							期末レポート	—
							授業内試験	70%
							授業内提出物	—
							授業内活動	20%
							その他	10%
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
	◎		○		◎		○	
当該科目のキーワード	声楽発声法、楽曲解釈、演奏法		歌唱表現		独唱・合唱		歌唱・音楽活動	
授業時間外学修の指示	演奏曲を毎日20分以上練習すること。							
授業の到達目標	歌唱は、音楽表現および音楽活動全般の基礎となる。歌唱の基礎技術である声楽発声法の理論と実際を学び、日本歌曲や外国歌曲をとおして、独唱と合唱の音楽的な歌唱技術・表現力、指導力を身につける。							
単位認定の要件	歌曲の暗譜独唱試験、授業参加・平常練習状況、課題曲・自由曲の合唱発表を総合評価して60点以上。							
単位認定方法へのフィードバック	授業内発表・独唱発表試験の講評及び振り返りレッスン、合唱発表の自己評価及び講評を行う。							
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容						
	1	発声練習	コンコーネNo.3	ドイツ歌曲唱法				
	2	発声練習	コンコーネNo.3	Ich liebe dich他				
	3	発声練習	コンコーネNo.4	日本歌曲唱法				
	4	発声練習	コンコーネNo.4	浜辺の歌他				
	5	発声練習	コンコーネNo.3.4	イタリア歌曲唱法				
	6	発声練習	コンコーネNo.5	Nina他				
	7	発声練習	コンコーネNo.5	Sebben crudele他				
	8	芸術鑑賞	日本の伝統音楽					
	9	合唱1	パート練習					
	10	合唱2	ハーモニー作り					
	11	合唱3	曲想作り・まとめ					
	12	任意の歌曲	個人指導1	伴奏合わせ				
	13	任意の歌曲	個人指導2	歌唱表現				
	14	任意の歌曲	独唱発表					
15	課題曲・自由曲 合唱発表							
教科書・教材	声楽教則本「コンコーネ50番」中声用 畑中良輔編（全音楽譜出版社）、 「独唱名曲100選」（音楽之友社）							
参考書・参考文献等	適宜、指示する。							
履修上の注意等	コンサート・CD等で音楽鑑賞をすること。							

【2317】 専門教育科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
音楽表現Ⅲ(1)(器楽)			演習	一戸 智之 他	2年次	前期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目			単位認定の方法と フィードバックの有無
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	保育士	
授業概要			「音楽表現Ⅰ」で学習したピアノ表現技能をさらに発展させ、それらを器楽教育全般の広い領域のものとして捉えながら、将来、様々な教材を効果的に指導でき得るような実力を養成する。受講者のピアノ実技経験は個人によって格差があるため、使用テキストはあらかじめ個人の希望申告による担当教員との相談によって決定する。受講生を少人数のグループに分け、個人々の音楽能力に応じた個人レッスン形式で授業を展開する。なお、「全訳ハノンピアノ教本」(全音楽譜出版社)を受講者全員併用していく。		期末試験 60% 有			期末レポート — 有
			授業内試験 20% 有		授業内提出物 — 有			授業内活動 20% 無
			授業内提出物 — 有		授業内活動 20% 無			その他 — 有
到達目標の分類			《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標			専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。
			◎		—		○	
当該科目のキーワード			基礎的なピアノ奏法の理解 音楽理論の理解		ピアノ表現法		ピアノ基礎技能に基づいた実践力・応用力	
授業時間外学修の指示			ピアノ練習室を積極的に活用し、各回の授業において与えられた課題曲の毎日の予習・復習を徹底すること(受講にあたり、毎週、60分以上の予習・復習に心がけること)。					
授業の到達目標			本授業の最終試験における最低到達目標はバイエルピアノ教則本85番とする。					
単位認定の要件			① 第15回目の最終授業までにバイエルピアノ教則本84番まで終了している。 ② ①を満たした受講者と教員との相談によって、レベルに応じた試験曲を選択する。15回の授業を通して基礎的なピアノ演奏法及び表現法の習得がなされ、かつ、最終試験においてこれらのピアノ基礎技能を基に適切な演奏ができる。 ①及び②を満たした受講生に単位を認定する。					
単位認定方法へのフィードバック			中間試験及び最終試験は全員による演奏会形式で行う					
授業計画 (各回の内容や到達目標)			回	内 容				
				授業の目的、概要と計画 個人レッスン：拍子記号とリズムについて				
			2	レガートとノン・レガートの奏法				
			3	スタッカート奏法				
			4	ドルチェとスラーの奏法				
			5	調号と臨時記号について				
			6	重音の奏法				
			7	中間試験に向けたリハーサル及び諸注意、確認事項				
			8	全員による中間試験及び振り返り (最低到達目標はバイエルピアノ教則本75番とする)				
			9	速度標語と強弱記号について				
			10	調と音階について				
			11	レグジュロについて				
			12	前打音の奏法				
			13	アクセントの奏法				
			14	テヌートとマルカートの奏法				
			15	最終試験に向けたリハーサル及び確認事項				
教科書・教材			「全訳ハノンピアノ教本」「全訳バイエルピアノ教則本」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバムⅠ」「モーツァルトソナタアルバムⅠ・Ⅱ」「メンデルスゾーン 無言歌集」(以上 全音楽譜出版社)					
参考書・参考文献等			「わかりやすい楽典」(音楽之友社)					
履修上の注意等			楽譜購入について不明な点は担当教員に相談すること。					

【2318】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
音楽表現Ⅲ(2)(器楽)		演習	一戸 智之 他	2年次	後期	児童学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目			
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士		
授業概要		「音楽表現Ⅰ」で学習したピアノ表現技能をさらに発展させ、それらを器楽教育全般の広い領域のものとして捉えながら、将来、様々な教材を効果的に指導でき得るような実力を養成する。受講者のピアノ実技経験は個人によって格差があるため、使用テキストはあらかじめ個人の希望申告による担当教員との相談によって決定する。受講生を少人数のグループに分け、個人個人の音楽能力に応じた個人レッスン形式で授業を展開する。なお、「ハノンピアノ教本」(全音楽譜出版社)を受講者全員併用していく。				単位認定の方法と フィードバックの有無		
						期末試験	60%	有
						期末レポート	—	
						授業内試験	20%	有
						授業内提出物	—	
						授業内活動	20%	無
						その他	—	
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
	◎		◎		—		○	
当該科目のキーワード	基礎的なピアノ奏法の理解 音楽理論の理解		ピアノ表現法		—		ピアノ基礎技能に基づいた実践力・応用力	
授業時間外学修の指示	ピアノ練習室を積極的に活用し、各回の授業において与えられた課題曲の毎日の予習・復習を徹底すること(受講にあたり、毎週、60分以上の予習・復習に心がけること)。							
授業の到達目標	本授業の最終試験における最低到達目標はバイエルピアノ教則本100番とする。							
単位認定の要件	① 第15回目の最終授業までにバイエルピアノ教則本99番まで終了している。 ② ①を満たした受講者と教員との相談によってレベルに応じた試験曲を選択する。15回の授業を通して基礎的なピアノ演奏法及び表現法の習得がなされ、かつ、最終試験においてこれらのピアノ基礎技能を基に適切な演奏ができる。 ①及び②を満たした受講生に単位を認定する。							
単位認定方法へのフィードバック	中間試験及び最終試験は全員による演奏会形式で行う。							
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容						
	1	本授業の目的、概要と計画 個人レッスン：指の奏法と重力奏法(指の振りと腕の回転)						
	2	鍵盤へのタッチの仕方について						
	3	リズム・テンポ・ハーモニーについて						
	4	16分音符と3連符の奏法						
	5	和音について						
	6	左手の5指の保持について						
	7	中間試験に向けたリハーサル及び諸注意、確認事項						
	8	全員による中間試験および振り返り (最低到達目標はバイエルピアノ教則本95番とする)						
	9	二重音のスタッカート奏法						
	10	調性について						
	11	装飾音と装飾記号について						
	12	複付点のリズムについて						
	13	音楽の構造と形式について						
	14	曲のダイナミクスと演奏解釈について						
15	最終試験に向けたリハーサル及び諸注意、確認事項							
教科書・教材	「全訳ハノンピアノ教本」「全訳バイエルピアノ教則本」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネ アルバムⅠ」「モーツァルト ソナタアルバム」「メンデルスゾーン 無言歌集」(以上 全音楽譜出版社)							
参考書・参考文献等	「わかりやすい楽典」(音楽之友社)							
履修上の注意等	楽譜購入について不明な点は担当教員に相談すること。							

【2319】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
造形表現 I (1) (美術)		演習	長尾 明義	2年次	前期	児童学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		単位認定の方法と フィードバックの有無	
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	保育士	
				○	○	○	○	
授業概要			造形表現と学習指導要領や教科書との関連を紹介しながら、児童画の鑑賞を通して、幼児・児童の造形上の発達の理解や伝達内容の共感的な汲み取りができるようにする。また、表現の楽しさを実感できるように、様々なモダンテクニックによる制作や水彩絵の具の基本的な扱い方を多く取り入れ、制作を通して様々な技法や材料・用具に留意事項等を修得する。また、ノンバーバル・コミュニケーション能力を醸成するために、お互いの作品のよさや伝達内容の汲み取りを大切に授業を進め、造形による表現の楽しさや喜びを体感できるようにする。				期末試験	—
							期末レポート	—
							授業内試験	—
							授業内提出物	70% 有
							授業内活動	30% 有
							その他	—
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
	◎		○		—		◎	
当該科目のキーワード	造形上の発達や表現技法の理解		造形表現によるコミュニケーション		—		知識・技能を活用し表現する	
授業時間外学修の指示	講義前日の予習20分、当日の復習25分を毎回行い、技法や材料、用具の扱い方を確実に習得できるように努めること。							
授業の到達目標	造形的な表現力、造形によるコミュニケーション能力の向上を目指して ①ノンバーバル・コミュニケーションについて理解し、造形によって思いを伝えることができる。 ②水彩絵の具の特徴や基本的な扱い方を理解し、水彩絵の具の特長を生かして表現できる。 ③様々な技法の特徴や方法を理解し、その技法を生かした表現ができる。 ④児童の作品や友達の作品を鑑賞し、その表現内容やよさを指摘できる。							
単位認定の要件	到達目標の①～④の合計が60点以上							
単位認定方法へのフィードバック	制作過程の自己評価（表現カード）を確認し助言を加える。							
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容						
	1	第1章 子どもの絵はメッセージ（ノンバーバルコミュニケーション・伝達内容の読み取り）						
	2	第1章 子どもの絵の造形的な発達と望ましい絵の見方（児童画の鑑賞と演習）						
	3	第2章 水彩絵の具の特長と基本的な扱い方（描画材料・用具の扱い方の理解）						
	4	第2章 水彩絵の具による混色（混色による表現・緑色のグラデーション）						
	5	第2章 色彩の寒暖をイメージして表す（主調色の理解と表現）						
	6	第3章 様々な技法の試み デカルコマニー・ブローイング等（モダンテクニックの理解と表現）						
	7	第3章 様々な技法の試み スタンピング・ドリッピング・ストリング等（同上）						
	8	第3章 様々な技法の試み スクラッチ・バッチック・マーブリング等（同上）						
	9	第3章 様々な技法の試み スパッターリング・にじみ・ぼかし・フロッタージュ等（同上）						
	10	第4章 様々な技法を組み合わせる（複数の技法を生かした創造的表現）						
	11	第4章 様々な技法を組み合わせる（複数の技法を生かした創造的表現）						
	12	第4章 様々な技法を組み合わせる（複数の技法を生かした創造的表現）						
	13	第5章 ステンシルで表す（切り抜き版画の理解・パスによるぼかし技法）						
	14	第5章 展示用ステンシル作品の作成（共同制作）						
15	第6章 造形表現についてのまとめと鑑賞（お互いのよさを見つけ出す鑑賞）							
教科書・教材	「美術資料」（秀学社） 児童の作品（授業者が指導した児童の作品）							
参考書・参考文献等	「学習指導要領解説 図画工作科編」「造形教育の探求～三系論を核にして」（林 健造著 日本文教出版） 「教師のための図画工作」（西光寺 亨編著 日本文教出版）							
履修上の注意等	用具・材料の準備、後始末の徹底。事前に予告するが、各自シラバスで確認のこと。							

【2320】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
造形表現 I (2) (美術)		演習	長尾 明義	2年次	後期	児童学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		単位認定の方法と フィードバックの有無	
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	保育士	
				○	○	○	△	
授業概要			造形表現1の(2)では、立体的な造形表現を取り上げる。造形材料や用具の基本的な扱い方を理解し、習得した技能を生かしながら各自のイメージをもとに創造的な造形表現に挑む授業を展開していく。立体的な造形表現として、制作過程において様々な造形材料・用具の体験ができること、また、自らが想像・創造し創り上げる喜びとグループで協力しながら創り上げ、発表する喜びを体感できるようにさせたい。そのために「ギニョール(人形劇の人形)の制作」を取り上げ、完成時に発表会を行う。				期末試験	—
							期末レポート	—
							授業内試験	—
							授業内提出物	70% 有
							授業内活動	30% 有
							その他	—
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》			
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。			
		○	—	◎	◎			
当該科目のキーワード		材料・用具の基本的技能の習得	—	グループで人形劇づくり	習得した技能を表現に生かす			
授業時間外学修の指示		講義前日の予習20分、当日の復習25分を毎回行い、材料、用具の使い方や技法等を確実に習得するように努めること。						
授業の到達目標		自分のイメージを造形によって創造し、グループで劇を創り上げる楽しさを味わわせるために ①粘土・木材・紙・布・綿・糸・麻紐など材料の特徴を理解し造形に生かすことができる。 ②鋸、金槌などの用具の基本的な扱い方、接着剤の用途に応じた使用等を理解し適切に移用できる。 ③人形の役柄をイメージし、表情や衣服等を工夫し立体的な表現ができる。 ④グループで劇を創作し、協力しながら劇の発表ができる。						
単位認定の要件		到達目標の①～④の合計が60点以上						
単位認定方法へのフィードバック		制作カードに制作過程ごとにコメントを記入し、意欲付ける						
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容					
		1	第1章 造形表現とコミュニケーション・人形劇の歴史と教育的意義(立体的な造形表現)					
		2	第2章 グループ編制・各グループの話し合い・イメージのスケッチ(イメージの形象化)					
		3	第3章 人形の頭(かしら)の制作 鋸・金槌。釘・麻紐等(造形材料・用具の基本的な扱い方)					
		4	第3章 頭の芯に紙粘土で肉付け(立体的な造形表現・イメージ・表情の工夫)					
		5	第3章 頭の芯に紙粘土で肉付け・修正(立体的な造形表現・イメージ・表情の工夫)					
		6	第3章 頭に水彩絵の具やポスターカラーで着色(イメージの形象化・表情の工夫)					
		7	第3章 色彩やタッチを工夫し、顔の着色を完了。ニス塗り。(イメージの形象化・表情の工夫)					
		8	第3章 各自のイメージに合わせ、人形の頭部に髪を取り付ける(イメージの形象化・接着の工夫)					
		9	第4章 衣服の制作及び手の制作(イメージの形象化・造形材料の基本的な扱い方)					
		10	第4章 衣服の制作及び手の制作・帽子や飾りなど(イメージの形象化・造形材料の基本的な扱い方)					
		11	第5章 頭部・手・衣服の三つの接合・接着及びシナリオの作成(協働による人形劇づくり)					
		12	第5章 劇化(協働による人形劇)					
		13	第5章 各グループによる練習及び小道具や装飾づくり(協働による劇化)					
		14	第6章 4グループの発表・人形の工夫点や劇の感想発表(創造的表現についての相互評価)					
15	第6章 4グループの発表・人形の工夫点や劇の感想発表・授業のまとめ(創造的表現についての相互評価)							
教科書・教材		「美術資料」(秀学社) 世界の人形劇(写真) 指導者制作のギニョール						
参考書・参考文献等		「教師のための図画工作」(西光寺 亨編著 日本文教出版) 「図画工作・指導法」(大学美術指導法研究会 日本文教出版)						
履修上の注意等		個人で準備するもの(紙粘土・麻紐・水彩絵の具用具一式・布など)						

【2321】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科			
造形表現Ⅱ(1)(工芸)		演習	岩井 康頼	2年次	前期	児童学科			
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		単位認定の方法とフィードバックの有無		
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	保育士		
							期末試験	—	
授業概要							期末レポート	—	
幼児や児童の「表現意欲」と心身の発達課題を知るとともに、自分の手でものを生み出す喜びを「実感」し、将来、指導・支援する幼児や児童の安全で創造的な工芸活動について学ぶ。 「紙と土の素材の魅力を理解し、用具や加工技術を学びモノ作りの楽しさを習得する」							授業内試験	20%	無
							授業内提出物	40%	無
							授業内活動	40%	無
							その他	—	
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
	◎		—		—		◎		
当該科目のキーワード	ものづくりと人間性		作業と安全		—		計画性		
授業時間外学修の指示	①博物館や展示館で鑑賞する。②大学の図書館で資料を収集する								
授業の到達目標	①造形表現の楽しさを実習を通して体感し、幼児、児童教育における必要性を知り、幼児の表現活動に展開させることができる。 ②幼児と共に感じ、活動できる能力を涵養するために、幼児の造形活動の理解や援助に必要な、年齢別発達の特徴や表現能力の発達段階、表現形式などの基礎的知識を習得する。								
単位認定の要件	到達目標の達成度が60%以上。								
単位認定方法へのフィードバック	①授業参加状況を評価のポイントにする。②成果物の仕上がりや指導観点の合致								
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容							
	1	第1回：造形表現における工芸のあり方をプリコラーージュの視点から学ぶ。素材「紙」について学ぼう。							
	2	第2回：①身近な素材「紙」について学ぼう。用具と取り扱いを学ぼう。「貼り絵」「平面」							
	3	第3回：②身近な素材「紙」について学ぼう。「モビールを作ろう!」「重力と遊び—立体構成」							
	4	第4回：③身近な素材「紙」について学ぼう「ポップアップカードを作ろう!」絵が立体に一飛び出す絵本							
	5	第5回：③身近な素材「紙」について学ぼう。「絵が立体に一飛び出す絵本」							
	6	第6回：③身近な素材「紙」について学ぼう 「絵が立体に一飛び出す絵本」							
	7	第7回：③「絵が立体に一飛び出す絵本」 鑑賞と評価							
	8	第8回：④プリコラーージュの視点から身近なダンボールによる「住みたい街づくり」コンセプト、製作。							
	9	第9回：④プリコラーージュの視点から身近なダンボールによる「住みたい街づくり」製作。「楽しい空間」							
	10	第10回：④プリコラーージュの視点から身近なダンボールによる「住みたい街づくり」製作。							
	11	第11回：④「住みたい街づくり」作品完成。コンセプト発表と鑑賞。観点について							
	12	第12回：⑤身近な素材による感触あそび。「土粘土あそび」を通して、「手に持つと心地いい形」「玩具」							
	13	第13回：⑤身近な素材による感触あそび。「玩具を作ろう!」「フリークラフト」スケッチから制作							
	14	第14回：⑤身近な素材による感触あそび。スケッチをもとに「玩具を作ろう!」							
15	第15回：⑤作品完成・発表と鑑賞。半年間の講評と評価。まとめ。								
教科書・教材	『障害者アートの現在地』岩井康頼監修、弘前大学出版会								
参考書・参考文献等	『心おどる造形活動—幼稚園・保育園に求められるもの—』成田・孝著、大阪教育出版								
履修上の注意等	事前に、参考資料に目を通し、必要な材料等を準備しておく。								

【2322】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
造形表現Ⅱ(2)(工芸)		演習	岩井 康頼	2年次	後期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園
				○	△	△
授業概要		幼児や児童の「表現意欲」と「身体」「認知」「社会性」「感情」「創造性」などの発達課題を知るとともに、自分の手でものを生み出す喜びを「実感」し、将来、指導・支援する幼や児童の安全で創造的な工芸活動について学ぶ。 「木と紙の身近な素材の魅力を理解し、用具や加工技術を学びモノ作りの楽しさを習得する」				単位認定の方法とフィードバックの有無 期末試験 ー 期末レポート ー 授業内試験 20% 無 授業内提出物 40% 無 授業内活動 40% 無 その他 ー
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
当該科目のキーワード		◎ ものづくりと人間	◎ 作業と安全性	ー	○ 計画性	
授業時間外学修の指示	①博物館や展示館で鑑賞する。②大学の図書館で資料を収集する					
授業の到達目標	①造形表現の楽しさを実習を通して体感し、幼児、児童教育における必要性を知り、幼児の表現活動に展開させることができる。 ②様々な工芸素材を体験し、安全で基礎的な加工技術を習得する。					
単位認定の要件	到達目標の達成度が60%以上					
単位認定方法へのフィードバック	①授業参加状況を評価のポイントにする。②成果物の仕上がりや指導観点の合致を見る。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	「紙」について調べよう。「文化の記録と伝達」				
	2	手製で自分だけの「紙」をつくろう				
	3	手製の「紙漉き」で「エンボス作品」を作ろう				
	4	手製の「紙漉き」でエンボス作品を作ろう				
	5	手製の「紙漉き」した紙で「ランプシェードを作ろう」(アイデアスケッチから製作へ)				
	6	手製の「紙漉き」した紙で「ランプシェードを作ろう」。製作				
	7	手製の「紙漉き」した紙で「ランプシェードを作ろう」。製作				
	8	「ランプシェード」 鑑賞会 合評会				
	9	遊びを豊かにする「木の板でパズルを作ろう」 アイデアスケッチ(図案の工夫)から制作へ 転写へ				
	10	遊びを豊かにする「木の板でパズルを作ろう」 電動糸のこの使い方(用具の名所と使用の留意点)				
	11	遊びを豊かにする「木の板でパズルを作ろう」 塗装について(アクリル絵の具で彩色)				
	12	遊びを豊かにする「木の板でパズルを作ろう」 完成と鑑賞				
	13	創造的な生活を楽しむ「フリークラフト」アイデアスケッチから製作へ				
	14	創造的な生活を楽しむ「フリークラフト」多様な素材を生かした作品				
15	発表と評価(創造性は・子どもの視点は・楽しい作品か)					
教科書・教材	『障害者アートの現在地』岩井康頼監修、弘前大学出版会 図画工「作学習指導書1、用具材料編、開隆堂(文部省検定教科書図工11準拠)					
参考書・参考文献等	『心おどる造形活動一幼稚園・保育園に求められるもの一』 成田・孝著、大阪教育出版					
履修上の注意等	事前に、参考資料に目を通し、必要な材料等を準備しておく。					

【2323】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
児童体育理論		講義	大島 義晴	2年次	前期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
				○	○	○
授業概要			体育学（スポーツ・健康科学）の視点から、子どもの発育・発達と教育について考察する。具体的には、児童期の運動・スポーツについて、体力や運動能力の向上だけでなく、運動を制御するからだの仕組みやスポーツを通しての心の発達・コミュニケーション能力の育成という面も重要視した講義を行う。また、教科体育のみならず、教科以外の体育や集団行動など、小学校教員としての資質養成を図る。			単位認定の方法と フィードバックの有無 期末試験 ー 期末レポート ー 授業内試験 60% 有 授業内提出物 ー 授業内活動 20% 有 その他 20% 無
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
		◎	—	○	○	
当該科目のキーワード		体育科の目標・内容	—	グループ学習	スポーツ指導	
授業時間外学修の指示		講義前日の予習90分及び当日の復習90分で、各回の到達目標を十分に理解するように努めること。また、日頃から子どもの運動あそびを観察する目を持ち、発育発達期の運動・スポーツの効用について考える時間を持つ。				
授業の到達目標		①小学校学習指導要領体育科のねらいと内容について理解を深める。 ②子どもの発育発達を考慮した児童期の体育のあり方について理解する。 ③ヒトの運動機構について理解し、スポーツ指導のための基礎力を高める。				
単位認定の要件		到達目標①～③が6割以上達成されていること。				
単位認定方法へのフィードバック		小テストは採点をして授業内で返却、解説をする。また、グループプレゼンはその都度講評する。				
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容			
		1	ガイダンス、児童体育理論の意義（幼稚園教育との接点）			
		2	小学校における体育科教育（小学校学習指導要領 体育編）			
		3	子どもの発育発達（運動の効用と限界）			
		4	身体運動の制御機構①（生理学的特性）			
		5	身体運動の制御機構②（力学的特性）			
		6	グループ・プレゼン①（体育科の目標と内容）			
		7	グループ・プレゼン②（第1学年～第2学年の運動領域）			
		8	グループ・プレゼン③（第3学年～第4学年の運動領域）			
		9	グループ・プレゼン④（第5学年～第6学年の運動領域）			
		10	グループ・プレゼン⑤（指導計画の作成と内容の取扱い）			
		11	教科外体育①（学校教育全体の中で体育をどう捉えるか）			
		12	教科外体育②（体育の内容）			
		13	体力・運動能力について①（体力測定の意義、新体力テストの内容）			
		14	体力・運動能力について②（結果の処理とその活用）			
		15	小学校における体育・健康に関する指導の留意点（まとめ）			
教科書・教材		○小学校学習指導要領 体育編（文部科学省）				
参考書・参考文献等		○小学校学習指導要領Q&A体育編（教育出版）				
履修上の注意等		授業内私見として、2回の小テスト実施を予定しています。				

【2324】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
身体表現(1)		演習	大島 義晴、佐藤 睦子	2年次	前期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		単位認定の方法と フィードバックの有無
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	保育士
				○	○	○	○
授業概要		小学校体育科の領域のうち、主に陸上運動とボール運動の内容について取り扱い、理解を深める。様々な運動の持つ特性、ねらい、ルールや審判法を学ぶことにより、自らが楽しんで行う運動実践、さらには仲間との協力・協調から学ぶ社会的態度の育成を図りながら、教員を目指す者の資質向上に役立てたい。				期末試験	—
						期末レポート	—
						授業内試験	—
						授業内提出物	20% 有
						授業内活動	50% 無
						その他	30% 無
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。
	○		○		○		◎
当該科目のキーワード	運動特性・ルールの解釈		運動スキルの解釈		協力・協調		運動課題の克服
授業時間外学修の指示	日頃から子どもの遊びや行動を観察するとともに、授業外の時間（各回45分）を使って自己の運動スキルの向上に努めて下さい。						
授業の到達目標	①小学校体育科のねらいと内容を理解する。 ②高学年の運動課題克服に努める。 ③技や動きのコツをつかみ、よりよい動きを身につける。						
単位認定の要件	到達目標①～③が6割以上達成されていること。						
単位認定方法へのフィードバック	授業内提出物（レポート）は採点の上返却し、授業内で解説。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容					
	1	本授業の目的、概要・計画について					(担当：大島 義晴)
	2	陸上運動（走運動）	：速く走る・長く走る			(担当：大島 義晴)	
	3	陸上運動（跳躍運動Ⅰ）	：遠くへ跳ぶ			(担当：大島 義晴)	
	4	陸上運動（跳躍運動Ⅱ）	：高く跳ぶ			(担当：大島 義晴)	
	5	陸上運動（投運動）	：遠くへ投げる・正確に投げる			(担当：大島 義晴)	
	6	陸上運動（障害走）	：リズムカルに飛び越える			(担当：大島 義晴)	
	7	陸上運動（リレー走）	：バトンを継ぐ、まとめ			(担当：大島 義晴)	
	8	体力測定（新体力テスト）					(担当：大島 義晴)
	9	ボール運動（ゴール型）	：タグラグビーⅠ			(担当：佐藤 睦子)	
	10	ボール運動（ゴール型）	：タグラグビーⅡ			(担当：佐藤 睦子)	
	11	ボール運動（ベースボール型）	：キックベースボールⅠ			(担当：佐藤 睦子)	
	12	ボール運動（ベースボール型）	：キックベースボールⅡ			(担当：佐藤 睦子)	
	13	ボール運動（ベースボール型）	：ハンドベースボール			(担当：佐藤 睦子)	
	14	ボール運動（ネット型）	：プレルボール			(担当：佐藤 睦子)	
15	ボール運動（ネット型）	：ソフトバレーボール、まとめ			(担当：佐藤 睦子)		
教科書・教材	小学校新学習指導要領Q&A 体育編（教育出版），小学校学習指導要領解説 体育編（文部科学省）						
参考書・参考文献等	授業内で適宜資料を配付します。						
履修上の注意等	習得の効果をより高めるために教科書をよく読み、技のポイント確認と予備学習に努めて下さい。						

【2325】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科			
身体表現(2)		演習	佐藤 睦子	2年次	後期	児童学科			
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目				
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士			
			○	○	○	△			
授業概要		<p>小学校学習指導要領（体育編）の内容から、技達成型の運動と称されている器械運動（マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動）について扱い、その特性に触れながら技術習得を目指す。できない—できる—より上手を目標に、児童の立場に立った物事のとらえ方、考え方ができる展開を試みたい。なお、雪国の地域性を活かした雪上運動も含めて行う。</p>				単位認定の方法とフィードバックの有無			
						期末試験	—		
						期末レポート	—		
						授業内試験	50% 有		
						授業内提出物	20% 無		
						授業内活動	30% 有		
						その他	—		
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
	○		○		○		◎		
当該科目のキーワード	運動特性の理解		運動スキルの獲得		協力・協調		運動課題の克服		
授業時間外学修の指示	提示される実技課題に取り組み、授業内で習得するよう努める。なお、授業時間外の練習においては、場の安全に配慮し、怪我防止のため必ず複数人で行うこと。								
授業の到達目標	小学校体育科のねらいと内容を理解し、高学年の課題克服に努める。技や動きのコツをつかみ、より安定した技と補助法を身につける。								
単位認定の要件	高学年の内容から提示される実技課題において、技の完成度が概ね認められる。								
単位認定方法へのフィードバック	技を習得する過程において、グループ及びペア活動を重ねることで、技のポイントと動きのコツを見抜く目を養う。技が未完成な者に対しては補講を行う。								
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容							
	1	本授業の目的、概要・計画について		器械運動（マット運動①）		基本の運動、前転・後転			
	2	器械運動（マット運動②）		開脚前転・開脚後転					
	3	器械運動（マット運動③）		側方倒立回転					
	4	器械運動（マット運動④）		倒立前転・頭倒立					
	5	器械運動（マット運動⑤）		発展技・連続技					
	6	器械運動（マット運動⑥）		連続技の組み立て及び修正					
	7	器械運動（マット運動⑦）		実技試験、まとめ					
	8	器械運動（跳び箱運動①）		基本の運動、開脚跳び					
	9	器械運動（跳び箱運動②）		開脚跳び・台上前転					
	10	器械運動（跳び箱運動③）		開脚跳び・台上前転					
	11	器械運動（跳び箱運動④）		発展技					
	12	器械運動（跳び箱運動⑤）		技の修正及び要点確認、まとめ					
	13	器械運動（鉄棒運動①）		基本の運動、上がり技、下り技、支持回転技					
	14	器械運動（鉄棒運動②）		発展技・技の組み合わせ					
15	雪上運動、まとめ								
教科書・教材	小学校新学習要領指導Q&A 体育編（教育出版）		小学校学習指導要領解説 体育編（文部科学省）						
参考書・参考文献等	授業内で適宜参考資料を配布する。								
履修上の注意等	習得の効果をより高めるために教科書をよく読み、技のポイント確認と予備学習に努めること。								

【2331】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
教職の理解		講義	石戸谷繁、本山敬祐 他	2年次	前期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
				○	○	○
授業概要						単位認定の方法と フィードバックの有無
教育のあり方、及び教員としての意識の向上を図るためには、教育の理論と実践を関係づけ、さらに生き生きとした生の教育現場への理解が必要である。本講義では、長く教育現場で実践に携わり、教育行政機関や小・中・高それぞれの校種で管理職を経験してきた本学専任教員を中心に、教職の意義及び教員の役割、並びに教員の職務などについて、各人の切り口で、それぞれ実際面での工夫や苦心も交えて講じる中で、教職の現実についての理解を深めていく。また、「チーム学校」として、専門性に基づく体制の在り方と機能的運営、教員一人ひとりの力の発揮とともに校内外の連携についても触れる。初回と最終回は、本学学長が担当し、特に、最終回では全体を総括して、社会における教育の重要性、教職に対する期待と心構えを説く。						期末試験 —
						期末レポート —
						授業内試験 —
						授業内提出物 80%
						授業内活動 20%
						その他 —
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
		◎	○	○	—	
当該科目のキーワード		学び続ける教員	課題解決力	チーム学校	—	
授業時間外学修の指示		各担当者が行う。				
授業の到達目標		教職に対する心構えを培う。教職を目指す学生として、教職の意義、教員の役割、教員の職務、学校現場での教員、求められる教師像、教職への進路選択に指標となる内容等について理解する。				
単位認定の要件		各回の評価合計を実施回数「15」で割った平均点が、60点以上であること。				
単位認定方法へのフィードバック		各担当者が行う。				
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容			
		1	教職への誘い：教職の魅力と意義、教師の役割と職責について（本山 敬祐）			
		2	学校教育現場の実際(1)：子どもの個性・可能性を引き出し伸ばす教師とは（齋藤 雅俊、T2：長尾 明義）			
		3	学校教育現場の実際(2)：確かな学力を育む取り組み（花田 裕）			
		4	これからの学校教育(1)：ICTを活用した教育について（花田 裕）			
		5	これからの学校教育(2)：学び続ける教師をめざして（研修と免許更新制）（石戸谷 繁）			
		6	学校間の連携(1)：生徒指導における幼小中高の連携について（本山 敬祐）			
		7	学校間の連携(2)：小中高連携の実践例と諸問題（中一ギャップ・高一ギャップ等）（花田 裕）			
		8	家庭との連携(1)：子どもの権利と教師（小野 昇平）			
		9	家庭との連携(2)：不適応行動における連携の実際（三道 なぎさ）			
		10	地域社会との連携(1)：総合的な学習の時間や特別活動等における連携の実際（花田 裕）			
		11	地域社会との連携(2)：地域社会に開かれた学校（生涯学習、学校支援地域本部事業等）（安川由貴子）			
		12	教育現場における現代的課題(1)：食と健康（今村 麻里子）			
		13	教育現場における現代的課題(2)：キャリア教育と教師のキャリア形成（石戸谷 繁）			
		14	教育現場における現代的課題(3)：多様な教育機会の保障（本山 敬祐）			
15	総括：現代の教員に求められる資質・能力と教職の道への挑戦（本山 敬祐）					
教科書・教材		オムニバス方式の授業のため、毎回担当者が資料等を用意する。				
参考書・参考文献等		特定の参考書は使用しないが、「教職とは何か」と言う問いに関わる本を自主的に探して読むこと。				
履修上の注意等		特になし				

【2346】 専門教育科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
教育方法・技術			講義	花田 裕	2年次	後期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目			単位認定の方法と フィードバックの有無
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	保育士	
授業概要			教師の指導力の一つとして、子供たちの思考や発想を活かした、授業や活動実践が必要である。そこで本科目はこのことを視点として、各法令、中教審答申等をもとに学校教育に求めている内容を明らかにする。また児童の思考過程を核とした指導展開を探究したうえで、指導案の構成要素を理解する。実践場面において具体的な指導技術について理解する。			期末試験	—	
						期末レポート	50%	有
						授業内試験	—	
						授業内提出物	30%	有
						授業内活動	20%	有
						その他	—	
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
	◎		○		—		—	
当該科目のキーワード	・各種法令・答申等の理解 ・指導案の構成要素の理解		・指導技術の探求 ・思考過程の探求		—		—	
授業時間外学修の指示	各回の講義テーマを視点として予習を90分、講義終了後90分、到達目標を確認しながら学修すること。							
授業の到達目標	①関係法令・中教審答申等から重要な文節を見つけることができ、その内容を理解することができる。 ②指導案の構成要素について理解できる。 ③教師は、多くの指導技術を持ち、実践に際し工夫していることを理解する。 ④今後、教師に求める能力の一つとして、ファシリテーターについて考察することができる。							
単位認定の要件	到達目標の①～④の合計が60点以上。							
単位認定方法へのフィードバック	レポート・その他提出物の採点基準を確認しながら、授業中に解説する。							
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容						
	1	第1章 学校教育の果たす役割とは何か。(関係法令の理解)						
	2	第2章 幼児教育と初等教育の目的は何か。(各種法令、答申)						
	3	第3章 子供たち現状と2030年社会の子供たちの未来とは。						
	4	第4章 次期学習指導要領が目指す姿とは。(カリキュラム・マネジメントの実現)						
	5	「主体的・対話的な深い学び」とはどのようなものか。						
	6	第5章 子供たちにとって「わかる・できる」 どういうことか。(心理と授業)						
	7	第6章 単元を視点とした学習プロセスの探求。						
	8	第7章 指導細案の構成要素と観点について。						
	9	評価基準と評価規準との関連性について。						
	10	第8章 発問と指導場面。(意図的発問と授業場面)						
	11	第9章 話し合い。(形態の特質と活用場面)						
	12	第10章 板書・ICT教材。(子どもの思考や発言を生かした提示)						
	13	第11章 ノート指導。(振り返りと、課題発見)						
	14	第12章 宿題。(宿題指導と授業との関連)						
15	第13章 これからの授業。(ファシリテーター型の教師)							
教科書・教材	適宜にレジュメ・資料プリントを配布する。							
参考書・参考文献等	「学習指導要領 総則編」(東洋館出版 文部科学省)、「教育方法論」(一藝社 田中智志 橋本美保監修、広石秀紀編著) 「学習指導の基礎技術と実践」(東洋館出版 筑波大学附属中学校著)、 「教育方法学の実践研究」(教育出版古藤泰弘著) 「教育ファシリテーターになろう」(弘文堂 石川一喜、小貫仁編)							
履修上の注意等	「教師とは何か」を意識して授業に臨むこと。レポートの様式はA4横書きです。							

【2347】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
保育内容総論		演習	安川 由貴子	2年次	前期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
				○	○	○
授業概要						単位認定の方法とフィードバックの有無
保育内容の歴史の変遷を踏まえて、現在の保育内容について学ぶ。また、保育の全体構造をふまえて5領域を総合的にとらえる視点を養い、具体的な事例を参考にしながら子どもを総合的に指導・援助する方法について学ぶ。						期末試験 ー
						期末レポート 15% 有
						授業内試験 50% 有
						授業内提出物 20% 有
						授業内活動 15% 無
						その他 ー
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
		◎	○	○	○	
当該科目のキーワード		保育の歴史	子どもの発達	保育の五領域	保育の展開	
授業時間外学修の指示	講義前日の90分の予習及び当日の復習90分で、各回の到達目標を十分に理解するように努める、自分自身で考える機会をもつこと。また、授業内容に関わる文献を積極的に読み、理解や考えを深めること。					
授業の到達目標	保育内容を総合的に理解し、総合的な保育を実践に即して行なうための視点をもつことができる。保育内容の歴史の変遷について学び、保育内容について理解する。また、保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領の基本的な内容を理解する。さらに、子どもの発達の特性と保育内容を理解し、保育内容と子ども理解のかかわりについて学び、保育の基本的な考え方を踏まえた保育の展開について理解できる。					
単位認定の要件	到達目標に対し、総合的に評価して60点以上。					
単位認定方法へのフィードバック	授業内提出物、授業内試験、期末レポートについては、評価をした上で返却する。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	ガイダンス 履修上の留意事項、保育所・幼稚園の実際				
	2	保育内容の歴史の変遷①戦前				
	3	保育内容の歴史の変遷②戦後				
	4	保育所、幼稚園、認定こども園の制度・目的・機能				
	5	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領①総則				
	6	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領②ねらいと内容				
	7	保育内容と子ども理解①子どもの発達の特性と保育内容(1)発達過程、3歳児の保育内容				
	8	保育内容と子ども理解②子どもの発達の特性と保育内容(2)4歳児の保育内容				
	9	保育内容と子ども理解③子どもの発達の特性と保育内容(3)5歳児の保育内容				
	10	保育内容と子ども理解④子どもの発達の特性と保育内容(4)五領域の総合性				
	11	保育内容と子ども理解⑤個と集団の発達と保育内容				
	12	保育内容の展開の基本①養護と教育が一体的に展開する保育、生活や発達の連続性に考慮した保育				
	13	保育内容の展開の基本②環境を通して行なう保育				
	14	保育内容の展開の基本③遊びによる総合的な保育				
15	保育内容の展開の基本④家庭、地域、小学校との連携をふまえた保育					
教科書・教材	レジュメ、資料を配布する。内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館					
参考書・参考文献等	厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館					
履修上の注意等	保育内容の各論で学習する事柄を相互に関連づけるという意識をもって受講すること。					

【2351】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
言葉の指導法		演習	船水 周、吉田 裕美子	2年次	後期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
				○	○	○
授業概要						単位認定の方法とフィードバックの有無
保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「言葉」について、乳幼児期の言語的発達を踏まえ、保育における子どもの言葉によるコミュニケーション、絵本や紙芝居などの教材研究や実演練習を行う。						期末試験 ー
						期末レポート 40% 有
						授業内試験 40%
						授業内提出物 ー
						授業内活動 20%
						その他 ー
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
		○	◎	○	○	
当該科目のキーワード		言葉の発達	ことばがけ	共感・伝達	聴く力・話す力	
授業時間外学修の指示	紙芝居・絵本の実演演習（読み聞かせ）の際には、受講者自身で各自絵本を準備し、練習しておくこと。講義前日の予習20分及び当日の復習25分で、各回の到達目標を十分に理解するように努めること。					
授業の到達目標	1. 言葉の発達について理解する。 2. 言葉の発達を踏まえた上での養護と教育の両方に配慮した適切な援助・指導について理解する。 3. 言葉に関する保育の専門的知識・技術を、実習やその他の様々な場において効果的にいかすことができる。					
単位認定の要件	到達目標1～3 60%					
単位認定方法へのフィードバック	レポートにコメントをつけて返却					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	保育内容としての言葉とは何か				
	2	幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育内容「言葉」の取り扱いと歴史の変容				
	3	言葉の意義：言葉の特性について、言葉の機能について				
	4	言葉の指導と教材研究①：「秋の課題」				
	5	言葉の発達と指導法①：乳児期の言葉の発達について				
	6	言葉の発達と指導法②：幼児期の言葉の発達について				
	7	乳幼児にとっての紙芝居・絵本の意義、絵本の選び方と扱い方				
	8	言葉の指導と教材研究②：児童文化財・遊び「わらべうた、手遊び、ことば遊び」				
	9	言葉の指導と教材研究③：紙芝居の実践				
	10	言葉の指導と教材研究④：紙芝居の実践				
	11	言葉の指導と教材研究⑤：絵本の実践				
	12	言葉の指導と教材研究⑥：絵本の実践				
	13	言葉の指導と教材研究⑦：「冬の課題」				
	14	領域「言葉」と小学校「国語科」との関係：幼小連携を目指した保育				
15	学習の振り返りとまとめ					
教科書・教材	「保育内容 言葉」小田 豊・芦田 宏 著（北大路書房） 保育内容・方法を知る					
参考書・参考文献等	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、＜領域＞人間関係ワークブック他					
履修上の注意等	演習中心の授業のため、欠席をせず、しっかりと課題に取り組むこと。					

【2356】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
保育研究(A)		演習	小関 潤子 (河内 見地子)	2年次	前期	児童学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目			
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士		
				○	○	△		
授業概要			<p>幼児の生活はあそびが中心であり、あそびの中の色々な身体活動を通して生活に必要な動きを獲得していく。特に運動遊びは、幼児の健康的な体と心を育て、生涯にわたる心身の発達の基盤になることから重要な意味を持つ。本授業では子どもの目線に立って自らが積極的に体を動かすことの楽しさを体験し、運動あそびの持つ爽快感・楽しさを味わうものとする。</p>			単位認定の方法と フィードバックの有無		
						期末試験		
						期末レポート		
						授業内試験	50%	有
						授業内提出物	30%	有
						授業内活動	20%	有
						その他		
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
	○		-		○		◎	
当該科目のキーワード	子どもの発育発達の理解		-		社会的態度の育成		運動遊びの研究	
授業時間外学修の指示	幼児教育における体育活動（運動あそび）の意義・重要性を深めつつ、各回の到達目標を十分に理解するよう努めること。講義の予習、復習45分。							
授業の到達目標	運動あそびの楽しさを体感し、幼児教育における体育活動の意義・重要性を知る。							
単位認定の要件	心身ともに健康維持に努め、80%以上の授業参加が望ましい。							
単位認定方法へのフィードバック	授業内活動記録シートの活用や試験の内容についての評価及びレポート課題の提出物に対する意見交換。							
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容						
	1	授業の概要(目的・計画、履修上の留意事項) について						
	2	領域「健康」の意義、幼稚園教育の目指すもの、基本運動(ステップの応用)、運動あそびの実際-手あそび1						
	3	5領域について、幼児の健康(ねらい・内容)、運動あそびの実際-歌を伴うリズムカルな動き - 手あそび2						
	4	乳幼児の発育・発達と身体的な遊び、運動あそびの実際 - リズムカルな集団あそび - 手あそび3						
	5	幼児期の身体・運動の発達①発育発達の視点から、運動あそびの実際 - リズムあそび、ゲームあそび、手あそび4						
	6	幼児期の身体・運動の発達②運動発達の視点から、運動あそびの実際 - リトミック(音符表現)、手あそび5						
	7	遊びと社会性Ⅰ - 遊びの発達、運動あそびの実際 - 体操あそび、ジャンケンあそび、手あそび6						
	8	遊びと社会性Ⅱ - 遊びの発達、運動あそびの実際 - 体操あそび、ゲームあそび、手あそび7						
	9	遊びの分類、運動あそびの実際 - 体操あそび、リズム表現、手あそび8						
	10	体育的リトミック概要(天野式)と指導について、手あそび9						
	11	体育的あそびの重要性、運動あそびの実際 - リトミック(音符表現)、手あそび10						
	12	集団遊び・ゲーム遊びの意義、運動あそびの実際 - リトミック(音符表現、拍子感)、手あそび11						
	13	手あそびの分類及び指導上の留意点、運動あそびの実際 - リトミック(音符表現、拍子感)、手あそび12						
	14	まとめ、技術の確認						
15	課題、研究の総まとめ							
教科書・教材	幼稚園教育要領解説 近藤 充夫ほか著 「領域 健康 三訂版」(同文書院)							
参考書・参考文献等	授業内で適宜資料を配付する。							
履修上の注意等	子どもの心情を理解し、常に子どもの目線で取り組むこと。活動にふさわしい服装で参加すること							

【2357】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
保育研究(B)		演習	小関 潤子 (河内 見地子)	2年次	後期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
				○	○	△	
授業概要		前期の保育研究(A)を土台に本授業では幼児期の運動あそびの持つ重要性・身体発達と運動技能・体力など心身の発育基盤を育成する「発達」に視点を当て理論と実技の両面から学習していく。演習後半で実施する大型の移動のできる遊具では、マット・跳び箱・鉄棒あそびなど、小学校低学年でも授業可能となるよう、系統性のある内容で取り組み、特に安全性の配慮、指導上の留意点についても深めていく。				単位認定の方法と フィードバックの有無	
						期末試験	
						期末レポート	
						授業内試験	50% 有
						授業内提出物	30% 有
						授業内活動	20% 有
						その他	
到達目標の分類	《知識・理解》 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		《汎用的技能》 コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		《態度・志向性》 自己管理力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		《総合・統合》 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	○		—		○		◎
当該科目のキーワード	子どもの発育発達の理解		—		社会的態度の育成		運動遊びの研究
授業時間外学修の指示	幼児の心身の発育発達をより理解し、各回の到達目標を十分に理解するよう努めること。講義の予習、復習45分。						
授業の到達目標	運動あそび基礎理論とあそびの実践から幼児のあそびへの理解を深め、遊びの展開の仕方を学ぶ。						
単位認定の要件	心身ともに健康維持に努め、80%以上の授業参加が望ましい。						
単位認定方法へのフィードバック	授業内活動記録シートの活用や試験の内容についての評価及びレポート課題の提出物に対する意見交換。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容					
	1	授業の概要(目的、計画、履修上の留意事項) について					
	2	天野式リトミックの指導効果、運動あそびの実際、基本運動(ステップの応用)、リトミック(音符表現)					
	3	わらべうたあそびについて—わらべうた体操、音符表現					
	4	運動能力と動きの獲得—わらべうた体操、音符表現					
	5	幼児の体力測定演習と理解、測定の視点を理解する—わらべうた体操、リズムカルな表現あそび					
	6	いろいろな遊具と遊びの指導と展開					
	7	素材を使ったあそびと展開Ⅰ(新聞紙など)					
	8	素材を使ったあそびと展開Ⅱ(タオルなど)					
	9	素材を使ったあそびと展開Ⅲ(風船など)					
	10	大型遊具・固定遊具・可動式遊具の遊びについて(遊具の使い方と安全・管理上の留意点)					
	11	マットあそび					
	12	跳び箱あそび					
	13	鉄棒あそび 手あそびとリズム運動との関連性について					
	14	組み合わせ遊具のあそび 手あそびと身体運動との関連性について					
15	まとめ 技術の確認						
教科書・教材	近藤 充夫ほか著 「領域 健康 三訂版」(同文書院)						
参考書・参考文献等	「幼稚園教育要領解説」(文部科学省)・幼児期における運動発達と運動遊びの指導(杉原 隆/川邊 貴子) 他						
履修上の注意等	子どもの心情を理解し、常に子どもの目線で取り組むこと。						

【2376】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
保育者論		講義	安川 由貴子	2年次	後期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園
				○		○
授業概要						単位認定の方法と フィードバックの有無
保育士の広範な職務に必要な能力について、子どもの権利思想、児童福祉法、保育所保育指針等も参照しながら解説し、それにより受講者が保育士資格の取得のための学習の見通しや、入職後のキャリア形成の見通しをもてるようにする。						期末試験
						期末レポート
						30%
						有
						授業内試験
						40%
						有
						授業内提出物
						15%
						有
						授業内活動
						15%
						無
						その他
						—
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
		◎	○	○	○	
当該科目のキーワード		保育者の役割と倫理	保育者の専門性	保育者の協働	保育者の成長	
授業時間外学修の指示		講義前日の予習90分及び当日の復習90分で、各回の到達目標を十分に理解するように努めること。また、保育実習での学びや新聞等のメディアからの保育に関わる情報と関連づけて学びを深めるよう努めること。				
授業の到達目標		国家資格としての保育士の制度的な位置づけを理解し、有資格者として要求されている保育者の役割と倫理、専門的な知識や技能について考察し、理解する。また、保育者のさまざまな協働の内容や実際についての理解を深め、保育者の専門職的成長について理解する。				
単位認定の要件		到達目標に対し、総合的に評価して60点以上。				
単位認定方法へのフィードバック		授業内試験、期末レポートについては、評価をした上で返却する。ミニ発表用の授業内提出物については、受講者分を印刷して、発表時に全体で情報・意見を共有できるようにする。				
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容			
		1	ガイダンス、目指す保育者像について			
		2	保育者の役割と倫理①子どもの権利思想の変遷			
		3	保育者の役割と倫理②子どもの権利条約(1)概要			
		4	保育者の役割と倫理③子どもの権利条約(2)グループ討議			
		5	児童福祉法における保育士(資格・要件・責務)			
		6	保育者の専門性①養護と教育			
		7	保育者の専門性②保育者の資質・能力			
		8	保育者の専門性③保育者の知識・技術・判断			
		9	保育者の専門性④保育実践の省察			
		10	保育者の協働①保護者支援にかかわる協働			
		11	保育者の協働②保護者・地域社会との協働			
		12	保育者の協働③専門職種間及び専門機関との連携(1)連携の内容			
		13	保育者の協働④専門職種間及び専門機関との連携(2)連携の実際			
		14	保育者の協働⑤小学校との連携			
		15	保育者の成長(専門性の発達、生涯発達とキャリア形成)			
教科書・教材		レジュメ、資料を配布する。厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーバル館				
参考書・参考文献等		ミネルヴァ書房編集部編『保育小六法』ミネルヴァ書房				
履修上の注意等		知識を身に付けるだけでなく、自分がどのような保育士になりたいか、そのために何を学ぶ必要があるかという視点をもって受講すること。ミニ発表やグループワークの機会にも、積極的な参加を期待します。				

【2377】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
保育課程論		講義	安川 由貴子	2年次	後期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	
				○		保育士	
授業概要		カリキュラムの基礎理論や保育の計画についての基本を理解し、子どもの発達段階や子どもの実態をふまえた、保育課程の編成や指導計画の実際、さらに指導計画の実際から改善へとつなげていく意義について学ぶ。				単位認定の方法とフィードバックの有無	
						期末試験	—
						期末レポート	25% 有
						授業内試験	45% 有
						授業内提出物	15% 有
						授業内活動	15% 無
						その他	—
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。
	◎		○		○		○
当該科目のキーワード	保育課程		指導計画		保育の評価		保育の質の向上
授業時間外学修の指示	講義前日の予習90分及び当日の復習90分で、各回の到達目標を十分に理解できるように努めること。また、保育実習での学びと関連させ、子どもの実態と発達を踏まえた指導計画を立て実践できるよう努めること。						
授業の到達目標	保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解できる。そして、保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解し、子どもの発達段階をふまえた指導計画を作成することができる。また、計画、実践、省察・評価、改善の過程による保育の質の向上に向けての自覚をもてる。						
単位認定の要件	到達目標に対し、総合的に評価して60点以上。						
単位認定方法へのフィードバック	授業内試験、期末レポートについては、評価をして返却する。ミニ発表用の授業内提出物は、受講者分を印刷し、発表時に内容を共有できるようにする。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容					
	1	ガイダンス、保育課程とは					
	2	カリキュラムの基礎理論①児童中心主義の考え方					
	3	カリキュラムの基礎理論②系統主義の考え方					
	4	保育の計画と質の向上、PDCAサイクル					
	5	保育の計画①保育課程の編成					
	6	保育の計画②保育の計画の実際(1)保育課程と長期の指導計画					
	7	保育の計画③保育の計画の実際(2)長期の指導計画と短期の指導計画					
	8	保育の計画④3歳未満児の指導計画					
	9	保育の計画⑤3歳以上児の指導計画(1)指導計画作成の留意・配慮事項					
	10	保育の計画⑥3歳以上児の指導計画(2)部分指導計画の作成					
	11	保育の計画⑦障がいのある子どもの指導計画					
	12	保育の計画⑧異年齢保育・長時間の保育の指導計画					
	13	保育記録と保育の質の向上					
	14	保育所の自己評価の意義と方法					
15	保育所児童保育要録の意義と記入方法						
教科書・教材	レジュメ、資料を配布する。厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館、岩崎淳子他『教育・保育課程論—書いて学べる指導計画—』萌文書林						
参考書・参考文献等	田中伸介監修『発達がわかれば子どもが見える—0歳から就学までの目からウロコの保育実践』ぎょうせい						
履修上の注意等	受講にあたり、乳幼児の発達過程について保育指針や発達心理のテキストで復習しておくこと。ミニ発表の機会も設けるため、積極的な参加を期待します。						

【2380】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科				
子どもの保健 I (1)		講義	松尾 泉	2年次	前期	児童学科				
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		単位認定の方法と フィードバックの有無			
			必修	選択	小学校	幼稚園		保育士		
2	15	30		○			○	期末試験	—	
授業概要		学習の基礎となる健康の概念や用語を学ぶ。子どもの成長発達や心身機能の各側面について学ぶ。対象となる子どもとその家族の生活行動（食事・運動・休養等）について保健的視点から理解し、必要な援助方法について考察する。講義の進度に沿って、個々の学生が関心を持つ健康課題を明確にし、各テーマに対する学習を深められるよう配慮する。 講義だけでなく、グループワーク・調べ学習や成果発表などアクティブラーニングを取り入れ、学生の主体的な学習力向上を目指す。					期末レポート	60%	有	
							授業内試験	—		
							授業内提出物	20%	有	
							授業内活動	20%	有	
							その他	—		
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》					
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。					
		◎	○	○	—					
当該科目のキーワード		心身の成長発達 小児看護・保健	健康診断・評価方法	基本的な養護方法	—					
授業時間外学修の指示		授業内容をもとに毎回の予習90分復習90分を用いて授業の理解を深める。また、自己の学習課題を決めて汎用的技能を用いたテーマ学習を行い、期末レポートにまとめることができる。								
授業の到達目標		<ul style="list-style-type: none"> 保健の基礎となる健康の概念や用語を理解し、子どもの正常な成長・発達のプロセスや評価方法について理解できる。乳・幼児期から、思春期に至る子どもとその家族の主な健康課題が理解できる。 個々の関心あるテーマについて身体面だけでなく、心理的社会的な側面を視野に入れた、養護の方策を考えることができる。 								
単位認定の要件		各到達目標の合計が60%以上とする。								
単位認定方法へのフィードバック		授業内の課題やレポートについては点数を開示するだけでなく、補足・解説を行う。								
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容							
		1	子どもの健康を守る意義（保健・健康の概念を理解しよう）							
		2	妊娠・出産・育児期の養護（成長を支える養護の重要性）							
		3	子どもの成長発育①（人の成り立ち、乳児期の発育の様子）							
		4	子どもの成長発育②（幼児・学齢期の発育の様子、評価方法）							
		5	生理機能の特徴（脳の発達、呼吸・循環機能、免疫のしくみ）							
		6	運動機能の特徴（赤ちゃんの持つ不思議な力・原始反射）							
		7	精神機能の発達とこころの成長							
		8	乳児の生活行動（食事・運動・休養・遊びを中心に）							
		9	乳児の栄養（母乳のメリット、離乳について）							
		10	各期の心身機能について、関心を持った内容をテーマに関して話し合いまとめる							
		11	幼児の日常生活行動と集団生活をするうえでの健康管理							
		12	就学・学齢期の日常生活行動							
		13	子どものヘルスプロモーション・食育について							
		14	近年注目されている子どもの健康課題（栄養障害・食物アレルギー）							
15	各自の学習テーマについてまとめる									
教科書・教材		子どもの保健 巷野悟郎 編 診断と治療社 子どもの保健演習ノート 榎原洋一 監修 診断と治療社								
参考書・参考文献等		「学習指導要領」および「幼稚園教育要領」 母子健康手帳や母子保健・学校保健に関する情報や国民衛生の動向などの資料を適宜紹介する								
履修上の注意等		子どもとその家族を取り巻く健康・社会問題に関心を持ち、自己の学習テーマを持って進めること。								

【2381】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
子どもの保健 I (2)		講義	松尾 泉	2年次	後期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
授業概要			子どもに起こりやすい事故や病気については、具体的な事例を取り上げながら学ぶ。子どもとその家族の健康状態に応じた対処については、保育者に必要な、安全・安楽・自立の視点が育つように、グループワークやロールプレイなど参加型の授業を行う。子どもが健康に生活するための方策、ヘルスリテラシー教育を考える。テーマ学習では、自己の考察を深められるように、テキスト以外の情報・文献も活用する。			単位認定の方法とフィードバックの有無
			○			期末試験 ー
						期末レポート 50% 有
						授業内試験 ー
						授業内提出物 30% 有
						授業内活動 20% 有
						その他 ー
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	
	◎		◎		○	
当該科目のキーワード	小児感染症・小児疾患 母子保健・児童福祉行政		健康教育・保健指導		青森県の子どもの健康課題 模擬健康教育の実施	
授業時間外学修の指示	授業内容をもとに毎回の予習90分復習90分を用いて授業の理解を深める。また、自己の学習課題を決めて汎用的技能を用いたテーマ学習を行い、期末レポートにまとめることができる。					
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期から学童期において、起こりやすい事故や、かかりやすい病気と対処法が分かる。近年増加している子どもの健康課題と家庭・社会環境の影響を理解できる。 ・国内外の母子保健・学校保健に関する取り組みを理解し、各健康課題へ支援の方策を考えることができる。 おこりやすい事故や病気に対する応急処置、就学年齢の子どもに対する健康教育の実践が理解できる。					
単位認定の要件	各到達目標の合計が60%以上とする。					
単位認定方法へのフィードバック	授業内の課題やレポートについては点数を開示するだけでなく、補足・解説を行う。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	乳幼児の疾患の特徴（なぜ病気になりやすく急変しやすいのか）				
	2	小児感染症・予防接種の種類と方法				
	3	子どもによく見られる疾病の症状と予防①（呼吸器・循環器・血液・泌尿器）				
	4	疾病の症状と予防②（代謝・内分泌、皮膚、運動器、）				
	5	疾病の症状と予防③（感染症・アレルギー・消化器）				
	6	疾病の症状と予防④（目・耳・鼻の病気）				
	7	精神・神経系の病気、悪性腫瘍・その他の疾患				
	8	集団生活の場で起こりやすい事故と予防				
	9	応急処置（対症看護・応急処置・AED使用時の注意）				
	10	多様化する子どもの生活と健康（生活習慣と健康課題）				
	11	子どもの健康を守る法律と施策①（母子保健・学校保健安全行政）				
	12	子どもの健康を守る法律と施策②（児童福祉・国際保健）				
	13	学校保健のしくみ（食育・特別支援教育・健康管理・健康診断）				
	14	健康教育の重要性（就学年齢の子どもを対象とした集団教育）				
15	健康教育指導案の発表					
教科書・教材	子どもの保健 巷野悟郎 編 診断と治療社 子どもの保健演習ノート 榊原洋一 監修 診断と治療社					
参考書・参考文献等	「学習指導要領」および「幼稚園教育要領」 地域の母子保健施策・児童福祉施策などを適宜紹介する					
履修上の注意等	子どもとその家族を取り巻く健康・社会問題の中から自己のテーマを持って学習を進めること。					

【2385】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
乳児保育(1)		演習	松宮 ゆり	2年次	前期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		単位認定の方法と フィードバックの有無
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	保育士
				○			○
授業概要			「乳児保育」は0歳のみならず、3歳未満児を取り扱うので、その保育に求められる成長・発達の知識や技術の実践について、個人及びグループ演習で習得する。乳児とのコミュニケーションを持ちやすいよう、マザリーズについても学習する。				期末試験 70% 有 期末レポート - 授業内試験 - 授業内提出物 10% 有 授業内活動 20% 有 その他 -
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
		◎	◎	○	◎		
当該科目のキーワード		乳児保育の基礎知識	マザリーズの特徴	乳児保育の役割	乳児保育の技術		
授業時間外学修の指示		演習前日の予習25分及び当日の復習20分で、各回の到達目標を十分に理解するように努めること。日頃からマザリーズレッスンの時間を取る。グループ演習までに、計画とリハーサルを行う。					
授業の到達目標		保育士を目指し乳児保育の基本を習得するために、 ①保育士に必要な、乳児保育の基礎知識を学習する。 ②マザリーズの特徴を知る。 ③乳児保育の役割を理解し、適切な援助方法を学ぶ。 ④乳児保育に必要な乳児の発達を理解し、保育の知識や技術を習得する。					
単位認定の要件		・到達目標の①～④の合計が60点以上。					
単位認定方法へのフィードバック		・期末試験を行う。演習課題のレポートについて評価をし、返却する。演習内活動についても評価をする。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内容				
		1	第1章 乳児とのふれ合いの基本（よこ抱き・たて抱き・おんぶのポイントと注意点及びマザリーズの特徴を知る。）				
		2	第2章 乳児の衣服の基本知識（衣服の特徴と扱いを知る。）				
		3	第3章 衣服の着せ方・脱がせ方（着替えの配慮のポイントを学ぶ。）				
		4	第4章 乳児の排泄への対応（おむつの替え方とトイレトレーニング。）				
		5	第5章 授乳のしかたと準備（人工乳・冷凍母乳の扱い。）				
		6	第6章 離乳食の基礎知識（離乳にむけた食事のすすめ方と食物アレルギーへの対応。）				
		7	第7・8章 沐浴、清拭のしかた・保育環境の衛生管理（乳児の生活を清潔に保つための注意点。）				
		8	第9章 かみつき、ひっかきへの対応（トラブルの背景と保護者との連携） ・グループ演習の説明と計画表用紙配布。				
		9	第10章 乳児保育における安全管理（乳児期特有の病気とくすりの扱い。）				
		10	第11章 乳児保育における安全管理（乳児を事件・事故から守る方法。）				
		11	第12章 連絡帳の書き方（子どもたちの育ちを保護者とわかち合う）・巻末ワークシート⑧使用。				
		12	グループ演習 第1章 遊びのアイデアと歌遊び（乳児の笑顔を引き出すための工夫。）				
		13	第2章 ふれ合い体操（乳児との絆を深める一子どもの発達を見ながら動きの工夫。）				
		14	第3章 乳児の創造力を育むための絵本（読み聞かせ－乳児に合わせた絵本との出会い。）				
		15	第4章 乳児保育で使用される道具（機能的で安全な使い方） チャイルドビジョン作成（幼児の視野体験のり、はさみ持参。）				
教科書・教材		志村聡子著『はじめて学ぶ乳児保育』同文書院・内山伊知郎監修『マザリーズの理論と実践』北大路書房					
参考書・参考文献等		巷野 悟朗 編 「子どもの保健」第5版 診断と治療社 榊原 洋一 監修「子どもの保健演習ノート」改訂第2版 診断と治療社					
履修上の注意等		演習課題レポートを配布するので各自、記入のこと。本試験の問題は、レポートの課題から出題されます。					

【2386】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
乳児保育(2)		演習	松宮 ゆり	2年次	後期	児童学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		単位認定の方法と フィードバックの有無	
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	保育士	
				○			○	
授業概要		乳児保育の歴史について知り、乳児の育つ環境の大切さ、乳児保育の果たす役割を知る。テキストに加え「保育所保育指針」及び解説書を参考にして巻末のワークシートへ記入していくことにより、理解を深める。 乳児の発達保障、保護者の支援、地域社会の子育て支援を学び、これからの社会における乳児保育のあり方を考える。				期末レポート	-	
						授業内試験	-	
						授業内提出物	10%	有
						授業内活動	10%	有
						その他	-	
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
	◎		○		◎		○	
当該科目のキーワード	乳児保育の専門性を理解		マザリーズの効果		複数担任制		保育所保育指針	
授業時間外学修の指示	演習前日の予習25分及び当日の復習20分で、各回の到達目標を十分に理解するように努めること。また、日頃から乳児に関する出来事や情報に関心を払い情報収集に時間を取ること。							
授業の到達目標	乳児保育の基本を習得するために、 ①乳児保育の歴史の変遷を知り、専門性について理解する。 ②マザリーズの効果について知る。 ③複数担任制の特徴について理解する。 ④「保育所保育指針」における乳児保育のポイントを知る。							
単位認定の要件	到達目標の①～④の合計が60点以上。							
単位認定方法へのフィードバック	・期末試験を行う。演習課題については評価をして返却する。演習内活動についても評価をする。							
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容						
	1	第1章 乳児保育はなぜ必要か（社会的背景から考える。）						
	2	第2章 (1)乳児保育の成り立ちを知る（歴史と現状を理解する・マザリーズレッスン。）						
	3	第2章 (2)乳児保育の成り立ちを知る（乳児院・認定子ども園とは。）						
	4	第3章 知っておきたい法律のいろいろ（児童福祉法他・ワークシート①。）						
	5	第4章 保育所保育指針について（現行指針の改訂のポイント・ワークシート②。）						
	6	第5章 保育所保育指針における乳児保育のポイント（乳児の発達過程をとらえる・ワーク③。）						
	7	第6章 保育所保育指針における乳児保育のポイント（乳児の保育に関わる配慮事項・ワーク④～⑦。）						
	8	第7章 人生の基礎としての乳児期（ポルトマンの考え方に学ぶ・マザリーズの効果について。）						
	9	第8章 乳児のこころの発達（身近な人との絆を育む過程。）						
	10	第9章 乳児の言葉の発達（思いを伝え合う手段を得る過程・人と関わる楽しさ「おもちゃ」。）						
	11	第10章 乳児のからだ（からだの発育と運動機能の発達・乳児の睡眠。）						
	12	第11章 乳児保育における複数担任制（保育者同士の連携のあり方。）						
	13	第12章 保育所で過ごす1日の流れ（年齢別デイリープログラム・乳児保育担当保育者のお話し。）						
	14	第13章 保護者との連携を考える（乳児をとりまく協力関係を目ざして。）						
15	第14章 発達の遅れとむき合う（保護者を支える。）							
教科書・教材	志村聡子著『はじめて学ぶ乳児保育』同文書院・内山伊知郎監修『マザリーズの理論と実践』北大路書房							
参考書・参考文献等	「保育所保育指針」＜平成29年告示＞・「保育所保育指針解説書」厚生労働省編							
履修上の注意等	演習課題レポートを配布するので、各自記入のこと。本試験の問題は、レポートの課題から出題されます。							

【2391】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
保育実習指導 I		演習	保育士課程委員会	2年次	前期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		単位認定の方法と フィードバックの有無
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	
授業概要			保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させることをねらいとして、講義や視聴覚教材等を用いた演習を行う。また、実習施設の理解のために、現場の職員からの講話を聞く機会を設ける。			期末試験	—
						期末レポート	—
						授業内試験	—
						授業内提出物	60% 有
						授業内活動	40% 有
						その他	—
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。
	◎		—		○		○
当該科目のキーワード	保育実習の意義・目的の理解		—		実習生としての自覚醸成		実習目標の設定
授業時間外学修の指示	授業前日予習と授業後の復習によって、実習施設の種別・役割の確認及び実習段階に応じた学習目標の設定の練習を行い、保育所・福祉施設における実習に備えること。						
授業の到達目標	保育実習の意義・目的、実習施設の役割、実習の内容を理解し、自らの課題を明確化する。また、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、守秘義務について理解するとともに、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について理解する。実習後には、実習総括・自己評価を通して、新たな課題や学習目標を明確にする。						
単位認定の要件	授業内提出物・授業内活動・課題レポートの合計点が60点以上であること。						
単位認定方法へのフィードバック	外部講師の講話に関するレポートに講評を添えて返却する。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容					
	1	保育実習の概要、意義・目的					
	2	保育実習の段階・方法・内容の理解					
	3	保育士としての心構え ～プライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権尊重について～					
	4	施設実習について(1) ～児童福祉施設の役割～					
	5	施設実習について(2) ～施設の目的と援助内容、一日の流れ～					
	6	施設実習について(3) ～事前の準備、事前訪問、書類の作成、礼状の書き方、細菌検査等について～					
	7	実習施設の理解(1) ～児童養護施設職員講話～					
	8	実習施設の理解(2) ～障がい児入所施設職員講話～					
	9	保育所実習について(1) ～保育所の一日の流れ～					
	10	実習録の書き方 ～施設実習、保育所実習～					
	11	指導案の書き方					
	12	保育所実習について(2) ～実習段階、学習目標～					
	13	実習施設の理解(3) ～保育所保育士講話～					
	14	保育所実習について(3) ～事前の準備、事前訪問、書類の作成について～					
15	実習の心得 ～実習の心得、諸注意～						
教科書・教材	適宜、参考資料を配布する。厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーバル館						
参考書・参考文献等	全国保育士養成協議会編『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房						
履修上の注意等	配布した参考資料は大事に保管し、予習・復習すること。 実習終了後に2・3年生合同で行われる反省報告会には必ず参加すること。						

【2392】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
保育実習 I (1)		実習	保育士課程委員会	2年次	後期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
2			必修	選択	小学校	幼稚園	
				○		保育士	
授業概要		① 保育所の目的や機能を理解する。 ② 保育所の一日を知り、乳幼児の発達と生活に実際に参加して理解する。 ③ 職員間の役割分担と、チームワークについて理解する。 ④ 既習の知識・技能を基礎とし、総合的に保育技術を体験する。				単位認定の方法とフィードバックの有無	
						期末試験	—
						期末レポート	—
						授業内試験	—
						授業内提出物	—
						実習施設の評価	60% 無
						大学の評価	40% 有
到達目標の分類	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
		—	—	○	◎		
当該科目のキーワード		—	—	保育所職員との協働	実習状況の省察		
授業時間外学修の指示	実習記録の作成を通じて毎日の実習目標の設定とその達成状況への省察を行い、新たに課題を見出すよう努めること。						
授業の到達目標	本実習は保育実習 I（保育所・園）として、保育所・園の生活に参加し、直接的かかわりを通して、乳幼児の理解を深めるとともに、保育所の機能と保育士の職務について学ぶ。						
単位認定の要件	規定日数の実習を行っておりかつ実習施設と大学の評価の合計が60点以上であること。						
単位認定方法へのフィードバック	実習録の記入状況を保育士課程委員会が評価し、講評を添付して返却する。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容					
		10日間の本実習については、観察・参加実習が中心になる。 指導内容や日程計画については、実習園の事情や実習生の状況に応じて下記の内容で適宜指導をお願いする。 《全体》 ① 施設の概要等に関するオリエンテーション ② 子どもとのかかわり方についての助言・指導 ③ 環境整備や一般用務等の助言・指導 ④ 服務心得 ⑤ 実習録の指導 《観察》 ① 実習生の紹介 ② 配属クラスの見学・観察、園舎内・園庭の観察 ③ 各クラスの見学・観察 《参加》 ① 配属クラスでの保育参加 ・子どもが日常繰り返す活動への補助 (登・降園時の活動、手洗い、排泄、食事、午睡) ・日常繰り返さないが、一つのまとまりを持った活動への参加 (子ども自らがすすんで行う活動、紙芝居、リズムカルな集団遊び、製作等の準備や後片付けを含む)					
教科書・教材	厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館						
参考書・参考文献等	幼少年教育研究所編著『新版 遊びの指導—乳・幼児編—』同文書院						
履修上の注意等	体調管理を徹底するとともに、事前訪問時の指導内容を理解した上で準備を整えて実習に臨むこと。						

【2393】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
保育実習 I (2)		実習	保育士課程委員会	2年次	後期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2			必修	選択	小学校	幼稚園
				○		○
授業概要		① 各施設の内容・目的や機能を理解する。 ② 子ども（利用者）の生活や実際を知り理解を深める。 ③ 職員の職種や役割、職場の組織、勤務形態を知る。 ④ 既習の知識・技能を基礎とし、総合的に養護の実験を体験する。				単位認定の方法と フィードバックの有無 期末試験 — 期末レポート — 授業内試験 — 授業内提出物 — 実習施設の評価 60% 無 大学の評価 40% 有
到達目標の分類	◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	≪知識・理解≫ 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	≪汎用的技能≫ コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	≪態度・志向性≫ 自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	≪総合・統合≫ 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
当該科目のキーワード	—	—	—	施設職員との協働	実習状況の省察	
授業時間外学修の指示	実習記録の作成を通じて毎日の実習目標の設定とその達成状況への省察を行い、新たに課題を見出すよう努めること。					
授業の到達目標	本実習は児童福祉法施行規則に基づく「保育実習実施基準」により、福祉施設の役割を実地に学び、そこに生活する子ども（利用者）や職員との直接的かかわりを通して、将来の保育士としての資質の向上を図ることをねらいとする。					
単位認定の要件	規定日数の実習を行っておりかつ実習施設と大学の評価の合計が60点以上であること。					
単位認定方法へのフィードバック	実習録の記入状況に関する保育士課程委員会が評価を行い、講評を添付して返却する。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
		10日間の本実習については、観察・参加実習が中心になる。 指導内容や日程計画については、各施設の人員や実習生の状況に応じて下記の内容で適宜指導をお願いする。 ≪全体≫ ① 施設の概要等に関するオリエンテーション ② 子ども（利用者）とのかかわり方についての助言・指導 ③ 環境整備や一般用務等の助言・指導 ④ 服務心得 ⑤ 実習録の指導 ≪観察≫ ① 実習生の紹介 ② 配属クラスの見学・観察、施設環境の観察 ③ 各クラスの見学・観察 ≪参加≫ ① 生活援助・養護技術の習得 ・子ども（利用者）の活動への補助 （生活援助、自立訓練、就労移行支援などを含む） ≪総括≫ ① 施設実習反省報告会による実習の総括と自己課題の明確化				
教科書・教材	特になし。必要に応じて資料を配布する。					
参考書・参考文献等	『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会					
履修上の注意等	体調管理を徹底するとともに、事前訪問時の指導内容を理解した上で準備を整えて実習に臨むこと。					

介護等体験			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
				富士 章子	2年次	前期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目			単位認定の方法とフィードバックの有無
			必修	選択	小学校	幼稚園	保育士	
					○			期末試験 ー
授業概要			1年次1月に第1回ガイダンスがあり、2年次の体験に備えて、数回のガイダンスを実施する。ガイダンスでは、介護等体験の意義、心構え、事前に勉強しておくことなどを説明し、申し込みに必要な書類の準備やネットでの登録手続きなどをす。事前の指導を充実させることで、学生に有意義な体験をしてもらいたい。					期末レポート ー
								授業内試験 ー
								授業内提出物 ー
								授業内活動 ー
								その他 ー
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》	
	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	◎		◎		○		◎	
当該科目のキーワード	特別支援学校及び社会福祉施設の特徴、留意点		障害者・高齢者に対する介護、介助、交流		教職員や利用者との協働		教員としての資質向上	
授業時間外学修の指示	実習に行く前に特別支援学校や社会福祉施設の特徴や介助の留意点等を学習し、車椅子の使用方法も練習すること。							
授業の到達目標	「義務教育（小・中）に従事する教員が、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する意識を深め、教員としての資質向上を図り、義務教育の充実を期する観点から、小学校、中学校の普通免許状の取得を希望する者に、障害者、高齢者に対する介護、介助、交流の体験を行うものである」という教育職員免許法、特例法に基づき、青森県内の特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間の介護等体験を実施する。							
単位認定の要件	体験先からいただく証明書2枚（特別支援学校1枚、社会福祉施設1枚）が教員免許取得の際、必要になります。							
単位認定方法へのフィードバック	実習ノートはコメントをつけ、返却している。（体験先でコメントをくれることもある。）							
授業計画（ガイダンス）	回	内 容						
	1	介護等体験の意義を理解する。県内の特別支援学校の特徴や所在地を確認し、希望調査票に正しく記入し、提出する。						
	2	特別支援学校の配属決定を受け、申し込み書類を作成し提出する。体験先への事前連絡と挨拶、お礼状の書き方、証明書の取り扱い、実習ノートの記入の仕方などを理解する。連絡網を作成する。社会福祉施設申し込みに関わるネットでの登録、検索・申し込みの手順や方法を理解し、入力作業をし、登録を完了する。受付開始日に自分で申し込みできるようにしておく。						
	3	社会福祉施設配属決定を受け、施設利用者（高齢者、障害者）と接する際の留意点および介助（入浴、着替え、食事、車椅子の操作など）の具体的方法などを理解する。連絡網を作成する。						
	4	各施設における具体的な諸注意（1週間前に事前連絡をすること、給食費、服装、検便の有無など）を確認する。レクリエーションの企画の準備をする。証明書、実習ノートの配布、記入方法の確認をする。実習における心構えを再度確認する。						
教科書・教材	ガイダンスで配布される資料は、必ずファイルに保存し、ガイダンスのたびに持参すること。							
参考書・参考文献等	「よくわかる社会福祉施設」 全国社会福祉協議会 「介護等体験ガイドブック フィリア」 全国特別支援学校長会編 ジアース教育新社							
履修上の注意等	小・中学校の教員免許の取得を希望する学生は介護等体験が必須となります。介護等体験を希望する者は必ずガイダンスに出席してください。							